HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	平成26年度北海道大学附属図書館外部評価報告書
Author(s)	北海道大学附属図書館
Relation	平成26年度北海道大学附属図書館外部評価報告書
Issue Date	2015-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58201
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	report
File Information	gaibuhyouka-hokokusho-2014.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

平成 26 年度

北海道大学附属図書館
外 部 評 価 報 告 書

平成 27 年 3 月

北海道大学附属図書館

はじめに

この外部評価は,平成 25 年度に実施した自己点検評価を基礎として,その内容を点検し,第三者の立場から客観的な提言・評価をいただくことを目的として実施したものである。北海道大学附属図書館にとっては，平成 15 年度に初の外部評価を実施して以来，11 年ぶりのことであった。

５名の外部評価委員の先生方には，まず『平成 25 年度北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書』をはじめとする大量の資料をお送りして精読いただいた上，まだ残暑の厳しい９月５日，北海道大学札幌キャンパスにご参集願った。当日は，本館・北図書館・部局図書室の実地視察に加えて，学生サポーターとの懇談，職員との懇談などを行っていただき，日常業務に対するアドバイスから，図書館の将来を展望する長期計画・人材育成に関わる提言まで，的確かつ率直な講評をお聞かせいただいた。後日，個別に提出いただいた「評価シート」においても，多くの有益な助言と温かい励ましを頂戴した。

今回の評価で最も肝要な点は,「教育学生支援や研究支援など『内政面』においては極めて充実した活動を行っているのに対し，社会貢献や国際化など『外交面』においては一層の努力が期待される」というご指摘であろう。同じ趣旨は，外部評価委員会当日の講評における「待ちの姿勢が見られる（こちらから積極的に打って出るのではなくて要望や何かを待っているというふうな姿勢がある)」というひとことにも集約されている。近年，本館・北図書館の入館者数が続伸し，教育学習支援を中心に着実な成果を上げていると自負していた我々にとっては，きわめて貴重で有益な評言であった。このご指摘に従い，図書館の「外交面」により一層注力すること，失敗を恐れず，何事にも積極的にチャレンジする姿勢を育てることを期したいと思う。

また，今回の自己点検評価及び外部評価が，前回から 11 年ぶりという点については「甚だ不十分である」という，当然のご批判をいただいた。今後は，適切な間隔で定期的な点検評価を行う体制を確立し，次回の点検評価では，今回指摘された課題に対する具体的な取組み成果を報告できるよう，不断の努力を続けていかなければならない。

敢えて厳しい指摘を取り上げたが，図書館活動全体としては，高い評価をいただくことができた。平成 21～24 年度の附属図書館本館再生事業をはじめ，さまざまなご支援があってこその結果と銘記し，学内外の関係各位に御礼申し上げたい。そして，本報告書でも北図書館増築後のサービスへの期待が述べられているが，今後の新たな展開へのご支援をも引き続きお願いする次第である。また，情報化の進展や社会構造の変化など，大学そのものを取り巻く環境が大きく変動する時代にあって，真剣に職務に取り組んできた附属図書館事務部の皆さんにも敬意を表するものである。

本報告書は，職員ひとりひとりが，それぞれの職責にあって解決すべき課題とその改善状況を確認する基本資料として刊行するものである。折りに触れて本報告書を参照し，あるべき図書館の姿を思い描き，さらなる改善に努めてもらいたいと願う。

最後に，ご多忙の中外部評価委員の任をお引き受けいただいた先生方にあらためて御礼を申し上げるとともに，これをご縁として，引き続き当館の活動に関心を払っていただければ，附属図書館長として望外の喜びである。

平成 27 年２月

北海道大学附属図書館長

新　田　孝　彦

「平成 26 年度 北海道大学附属図書館外部評価報告書」目次

はじめに

目　次

Ⅰ　外部評価委員会報告

１．総評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

２．項目別評価一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

３．「評価シート」まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

Ⅱ　記録資料

１．進捗記録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

２．外部評価実施要領　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22

３．外部評価委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23

４．外部評価委員会事前配付資料一覧　・・・・・・・・・・・・・・　24

５．外部評価委員会次第・配付資料一覧　・・・・・・・・・・・・・　25

６．外部評価委員会関係者名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・　27

７．外部評価委員会日程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28

８．外部評価委員会記録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

９．「評価シート」及び記入要項　・・・・・・・・・・・・・・・・　51

１０．北海道大学附属図書館概況（自己点検・評価報告書対応状況）　・・・　62

１１．写真　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　66

Ⅰ　外部評価委員会報告

１．総評

平成 26 年度北海道大学附属図書館外部評価は，外部評価委員５名により，事前送付資料による書面調査を経た上で，９月５日（金）に現地調査が実施された。当日は，野家委員を委員長に選出した後，事前送付資料に関する質疑応答，施設見学，学生および職員に対するインタビューなどを行った。その結果に基づき，各委員は「評価シート」を作成し，５領域 19 項目について評価とコメントを提出した。この総評は，評価シートのまとめをもとに，その骨子を要約したものである［注１］。

評価は各項目について４段階（非常に優れている＝３，良好である＝２，おおむね良好である＝１，不十分である＝０）で行ったが，ポイント換算による 19 項目全体の平均点は 1.86 であり，ほぼ「良好である」に相当する結果であった。特に評価が高かったのは「蔵書管理（2.4)」,「学術研究コンテンツの整備（2.4)」,「北海道大学学術成果コレクション（2.4)」,「図書館情報システム（2.4)」などであり，逆により一層の努力が求められたのは，「研究支援としての情報リテラシー教育（1.2)」,「学外連携（1.4)」,「地域・社会貢献（1.4)」,「国際化への対応（1.4)」,「点検評価（1.6)」などの項目である。以下では各評価項目について，委員からコメントのあった「優れている点」と「改善を必要とする点」について，主要な指摘を摘記しておきたい。

Ⅰ．教育学習支援

１．利用者サービス（2.0）

本館の附属図書館再生事業終了により，入館者が増加しており，開館時間の延長（早朝および土日）が実施されていることが高く評価された。また，図書館学生サポーター（以下,「学生サポーター」）の活動が活発なことは特筆に値する。改善を要する点としては，長期休業期間中の閉館時間が早すぎるとの不満が多いこと（アンケート調査［注２］），および学内配送サービスについて多くの要望があり，具体的検討が必要なことが挙げられる。また，学生利用者アンケートについては，要望にどのような対応をしたのか公開提示する必要がある，との指摘があった。

２．蔵書管理（2.4）

総じて評価の高い項目であるが，優れている点としては，学生・教員・職員が連携して利用度の高い学習用図書を整備していること，図書選定に当たって教員・職員・学生の積極的関与が定着しつつあること，などが挙げられた。逆に改善を要する点としては，重複資料の除却や配置についての調整，また書庫内の案内に日本語以外の表記が必要，などの

［注１］項目別評価一覧は６頁，評価に付随する委員のコメントは７頁以下に収録されている。
［注２］事前配付資料：　「附属図書館利用者アンケート調査報告書（平成 26 年３月)」参照。以下同じ。

指摘があった。

３．学習環境（2.0）

図書館再生事業により，各階ごとのエリアの区別など，本館の学習環境が格段に整備されたことが高く評価された。改善点としては，電子機器の使用など学生の利用マナーについての不満が多い（アンケート調査）ことが挙げられる。また，本館と北図書館の学習環境には落差が著しいので，現在進行中の北図書館の増改築により格差是正がなされることを期待したい，とのコメントがあった。

Ⅱ．研究支援

１．学術研究コンテンツの整備（2.4）

限られた予算の中で，全学的な電子情報資源の整備を早い時期から進めており，大規模大学図書館のモデルとなってきたこと，とりわけ電子ジャーナルの契約拡充に努めてきたこと，が優れている点として評価された。ただ電子ジャーナルについては，教員や大学院生からは専門分野のタイトル増加やバックファイルの購入について不満や要望が多く寄せられており（アンケート調査），今後の改善が望まれる。

２．研究支援としての情報リテラシー教育（1.2）

全体として評価が低かった項目である。電子ジャーナルやデータベースの利用について講習会を数多く開催しているにも拘わらず，受講者数の少ない点が問題視された。利用者のニーズを汲み取った講習内容や開催日時に更なる工夫と改善が求められる。ただし，データベースの利用法のみならず，論文の書き方などの講習会を開催している点は，優れた点として評価された。また，講習会の開催内容や受講者数など開催結果をホームページなどで公開し，広報の役割をもたせてはどうか，との意見もあった。

３．北海道大学学術成果コレクション[HUSCAP]（2.4）

きわめて優れた点として，国内の代表的機関リポジトリとして先駆的役割を果たし，他の機関の模範となっているとともに，国際的にも高い評価を受けている点が挙げられる。ただしアンケート調査では，学内構成員（特に教員）からの不信感や無理解が見られ，それを払拭するための啓蒙活動や広報などの改善努力が必要である。

４．研究用図書の整備（1.8）

業務統合により書籍や雑誌の本館での一元管理が実現していること，また遡及入力事業の 95%が達成され，OPAC で検索できる体制が整っており，研究用図書の利用を促進している点が高く評価された。また，北海道関連の資料（アイヌ民族等）が大変充実しているこ

とは優れているが，同時にそのことを内外に展示などを通じて知らせる必要があるとの指摘があった。

Ⅲ．連携

１．学内（1.6）

学内の様々な部局と積極的に連携を進め，全学的な事業推進体制がとられている点が評価された。他方，学習スペースの活用など，より広範な学習支援や高度な研究支援を目指した共同プログラムの開発と実施については，他部局の教職員をも巻き込んだ連携を進める必要があると考えられる。また，語学学習や情報リテラシーなどの領域で学部教育カリキュラムとの連携を強化してはどうか，との指摘があった。

２．学外（1.4）

北海道地区ならびに全国レベルにおいて，基幹大学図書館としての役割を果たしており，研修等の事業を積極的に支援している点が評価された。ただ，北京大学との相互交流協定が停滞していること，北海道地区の大学図書館間の連携，デジタルリポジトリ連合の持続的活動など努力と改善を要する点も多い。

Ⅳ．社会貢献と国際化

１．地域・社会貢献（1.4）

優れた点としては，市民への館外貸出サービスが実施されており，貴重図書等の電子化とインターネット公開を進めていることなどが評価された。他方で，市民に対して公共図書館とは異なる大学図書館としての「生涯学習支援」の視点を明確化すること，北方資料（スラブ，アイヌ民族，開拓使など）以外のテーマによる企画展の実施，看板や案内の多言語化など今後の改善点も指摘された。また展示に当たっては常設展と企画展を区別すること，入場実績の把握と公表，職員の能力開発の観点から展示カタログの作成と頒布などのアドバイスがあった。

２．国際化への対応（1.4）

多読図書コーナーや語学自習室の設置，留学生向け図書館ガイドの作成など様々な工夫がなされている点が評価された。それと裏腹に，「図書館利用案内」の多言語化，避難経路など館内表示の英語併記など今後に残された改善点も数多い。また，国際化を「世界の中の北大図書館」のような大きな視点で捉える必要がある，との指摘もあった。

Ⅴ．組織運営

１．組織（1.8）

図書館職員の一元化や業務統合など組織改革が順調に進んでいること，研究開発室を設置し室員４名を配置したことなどが高く評価された。逆に，業務統合後の部局図書室の任務・役割の明確化と部局間格差の改善が早急に求められる。少なくとも，部局図書室の職員が交代要員なしには昼休みもとれないような現状は改善を要する。また，研究開発室では年度ごとの目標を定め，成果報告書（年報）を作成することが望ましい。

２．予算（2.0）

外部資金などを積極的かつ継続的に獲得し，事業を拡張してきたことが高く評価された。課題としては，年次計画の組み立て，図書館独自の収入を得る方策の検討，施設ごとの備品等の統一，学内協力による経費節減，などが挙げられた。

３．施設（2.0）

本館の再生事業による改築で図書収容力が大幅に増加し，快適な学習支援施設の整備がなされたことが高く評価された。反面，北図書館の施設設備の貧弱さ，老朽化が目についたが，これは現在進行中の増改築工事に大いに期待したい。また，メディアコートの利用については，さらなる工夫が必要との指摘があった。

４．図書館情報システム（2.4）

この項目は総じて評価が高かった。優れているのは，現時点で完成度の高いシステムが構築されており，システムの更新や改修が着実になされている点である。改善点としては，紙媒体と電子媒体が混在するハイブリッド環境下で新たなプラットフォームを導入することが挙げられる。また，利用者アンケートにはかなり厳しい意見が寄せられているので，頂門の一針として改善に努めていただきたい。

５．図書資産の管理（2.0）

研究室所蔵図書の蔵書点検について「マニュアル」が作成され，全所蔵資料のデータベース化が進んでいる点が評価された。逆に，この「マニュアル」に沿って迅速かつ的確に蔵書点検を進めることが今後の課題である。

６．安全管理（2.0）

「防災マニュアル」が整備され，防災訓練が行われている点が評価された。改善点として，防災訓練は図書館職員のみならず利用者にも呼びかけて参加してもらうことが挙げら

れる。また，防犯カメラ以外のリスク軽減のためのマネジメントが必要，との指摘もあった。

７．広報（1.8）

刊行物，図書館ホームページ，Facebook など広報手段をフルに活用して，多角的な PR を行っている点が高く評価された。とりわけ館報である「楡蔭」は学生の参加が見られ，好ましい編集姿勢となっている。また「附属図書館年報」の創刊は注目に値する。改善点としては，学内に対しても学外に対しても，利用者の来館を待つのではなく，図書館にできるサービスを積極的にアピールし，利用を促すような広報が必要である。

８．点検評価（1.6）

「平成 25 年度北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書」は大変充実した内容となっており，それに基づいた課題の把握と解決を進めていることは高く評価できる。ただし，自己点検評価が平成 15 年以来 10 年ぶりというのは甚だ不十分であり，自己点検・外部評価の実施サイクルを確立することが必要である。

以上の全体的印象を比喩的にまとめるならば，教育学生支援や研究支援など「内政面」においては極めて充実した活動を行っているのに対し，社会貢献や国際化など「外交面」においては一層の努力が期待される，ということになるであろう。施設設備や北方資料などの所蔵資料は申し分のないほど整っているので，その活用の仕方やサービスの内容について，図書館側からもっと積極的に学生，教員，市民に対して提案し，アピールしてもよいのではないかと感じられた。その点がいささか物足りないことが，委員からの利用者に対する「待ちの姿勢」という指摘につながっているのではないかと思われる。

今回作成された「自己点検・評価報告書」は内容的にきわめて優れており，現状の把握と解決すべき課題が網羅されているので，今後はそれらの事項を定期的にレビューし，進捗状況を確認するとともに，たゆまぬ改善に努めていただきたい。また，本外部評価報告書を大学執行部等のステークホルダーに対する図書館の将来像のアピール，また予算確保のツールとして活用していただければ幸いである。最後に，今回の外部評価を円滑に進めるに当たって，新田館長，望月副館長をはじめ図書館職員の皆様の多大なご尽力とご協力が得られたことに対し，この場を借りて厚く御礼を申し上げたい。

平成 26 年 12 月

北海道大学附属図書館外部評価委員会

委員長　　野　家　啓　一

２．項目別評価一覧

		非常に優れている	良好である	おおむね良好である	不十分である	（平均点）
Ⅰ教育学習支援	1.利用者サービス	●	●●●	●		2.0
	2.蔵書管理	●●	●●●			2.4
	3.学習環境	●	●●●	●		2.0
Ⅱ研究支援	1.学術研究コンテンツの整備	●●	●●●			2.4
	2.研究支援としての情報リテラシー教育		●●	●●	●	1.2
	3.北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）	●●	●●●			2.4
	4.研究用図書の整備	●	●●	●●		1.8
Ⅲ連携	1.学内	●	●●	●	●	1.6
	2.学外		●●●	●	●	1.4
Ⅳ社会貢献と国際化	1.地域・社会貢献		●●●	●	●	1.4
	2.国際化への対応		●●●	●	●	1.4
Ⅴ組織運営	1.組織	●	●●	●●		1.8
	2.予算	●●	●●		●	2.0
	3.施設	●●	●	●●		2.0
	4.図書館情報システム	●●	●●●			2.4
	5.図書資産の管理	●	●●	●●		2.0
	6.安全管理	●	●●●	●		2.0
	7.広報	●	●●●		●	1.8
	8.点検評価	●	●	●●●		1.6

※平均点：ポイント換算による

（非常に優れている＝3，良好である＝2，おおむね良好である＝1，不十分である＝0）

３.「評価シート」まとめ

Ⅰ　教育学習支援

１．利用者サービス

非常に優れている	●
良好である	●●●
おおむね良好である	●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・本館の改修事業終了により，使用者数も増加している。
・開館時間も従来に比べ延長されており，利用者の便宜を図っている。
・学生サポーターの制度がうまく機能している。
・学生協働ワーキンググループ（以下,「学生協働 WG」）と学生サポーターの活動による学生の視点をサービスに反映していること。
・施設・設備の充実が図られている。
・本館のサポートデスクなど新しい人的支援サービスが導入されている。
・各施設に学生が自由に学べる環境が整っている。
・入館者の増加，開館時間の延長（早朝及び土日），学生サポーターの活動。

【改善の必要がある点】

・長期休業期間中の閉館時間が早すぎるとの不満が多い。（アンケート調査）
・貸出期間の延長を望む声が教員に多い。（アンケート調査）
・学内配送サービスについて多くの要望があり，具体的な検討が必要である。
・学生のニーズに対応した学生図書の整備と学習支援サービスの展開。
・北図書館における初年次学生に特化した人的支援サービス。
・施設ごとにコンセプトがはっきりせず，後から付け足しのように設置したものもあり，統一感がなく，やや雑な感じである。
・北図書館の閲覧席，マナーの啓発や違反予防，専門的知識を持ったスタッフによる支援。

【その他コメント】

・学生の利用者アンケートで指摘または要望された点についてどのような対応をされたのか，あるいはする予定なのかを公開提示することが必要ではないか。

２．蔵書管理

非常に優れている	●●
良好である	●●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・一定の条件のもと，学部学生の入庫を認めている。
・学生サポーターによる選書ツアーが効果を挙げている。
・学内シェアード・プリント検討ワーキンググループ（以下,「学内シェアード・プリント検討 WG」）の活動が期待される。
・学生，教員，職員が連携して利用の高い学習用図書を整備していること。
・図書選定における教員・職員・学生の積極的関与が定着しつつある。
・機材の導入など蔵書管理は，かなりしっかりとしていると感じた。
・自動化書庫。

【改善の必要がある点】

・重複した資料の除却や配置についての調整。
・選書ツアーも良いが，図書のリクエスト機能を学生がより効果的に使える広報等の工夫。
・書庫などの案内に日本語以外の表記が必要である。

３．学習環境

非常に優れている	●
良好である	●●●
おおむね良好である	●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・各階ごとのエリアの区別など，学習環境の整備が進められている。
・図書館再生事業により本館の学習環境を格段に整備したこと。
・施設・設備の学習環境の改善が急速に進んでいる。
・各施設に学生が自由に学べる環境が整っている。
・本館の学習スペース。

【改善の必要がある点】
・エリア分けと電子機器の使用について学生からの不満が見られる。（アンケート調査）
・学生の利用マナーについて，改善を求める声が多い。（アンケート調査）
・学部間の環境の格差の是正。
・本館の学習スペースをどのように活用するかについての具体的な方策や他部局との連携。
【その他コメント】
・北図書館の増改築による学習環境の改善と蔵書管理の向上に期待したい。
・今後の学習のための様々な人的支援の取り組みを期待する。
・北図書館の完成を期待したい。

Ⅱ　研究支援

１．学術研究コンテンツの整備

非常に優れている	●●
良好である	●●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】
・限られた予算のなかで，電子ジャーナルや電子ブックの充実に努めている。
・全学的な電子情報資源の整備を早い時期から進め，大規模大学図書館のモデルとなってきたこと。
・年次計画による研究支援のためのアクセス環境の拡充。
・電子ジャーナルの契約拡充。
・各図書館や学部図書室など学部や研究教育の種類に特化した図書内容であり，広大なキャンパスでの図書館のあり方などの模索を感じる。
・電子ジャーナルの充実度。
【改善の必要がある点】
・やむをえないことながら，教員や大学院生からは専門分野のタイトル増加やバックファイルの購入について不満や要望が多く寄せられている。（アンケート調査）
・財源の確保と導入コンテンツの見直し。
・利用者が限定された特定分野のコンテンツや高額データベースの要望に対する対応。
・大学院生のニーズに応える電子ジャーナルやデータベースの選定。

２．研究支援としての情報リテラシー教育

非常に優れている	
良好である	●●
おおむね良好である	●●
不十分である	●

【優れていると評価できる点】

・電子ジャーナルやデータベースの利用について講習会を数多く開催している。
・電子情報資源に関する講習会を恒常的に開催していること。
・セミナーやデータベース講習会などを実施。
・データベースの使い方だけでなく，論文の書き方などの講習会の開催。

【改善の必要がある点】

・講習会の開催回数に比べ，受講者が少ない。開催時期や時間帯を再検討し，広報活動に力を入れる必要がある。
・研究者のニーズに対応した情報リテラシー教育のプログラムの用意と利用者からのフィードバック。
・情報リテラシー教育の講習内容や開催日時に更なる工夫。
・今回の視察であまり情報リテラシー教育についての部分は感じられない。また，端末などがまちまちで，機材等もむき出しで置いてあるので，これから改善が必要である。
・利用者のニーズをくみ取った講習会やリテラシー支援。

【その他コメント】

・開催内容や受講者数など開催結果を web で公開報告し，広報の役割を持たせてはどうか。

３．北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）

非常に優れている	●●
良好である	●●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・HUSCAP は国内の機関リポジトリとして先駆的役割を果たし，国際的にも高い評価をうけている。
・国内の代表的な機関リポジトリとして他の機関の模範となっていること。

・順調にコンテンツの増加が進んでいる。
・文献収録数とダウンロード数。

【改善の必要がある点】

・教員のなかに「再録は違法に近い」や「学会誌に出せない程度の仕事を載せても意味がない」などの無理解が見られる（アンケート調査）のは甚だ残念であり，啓蒙活動と広報にさらに力をいれるべきであろう。
・機関リポジトリシステムの高度化とコンテンツの多様化を図ること。
・アンケート報告にみられる学内構成員の不信感に対する改善努力。

【その他コメント】

・北大附属図書館の国内における機関リポジトリに対する先駆的に果たした役割は大きい。

４．研究用図書の整備

非常に優れている	●
良好である	●●
おおむね良好である	●●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・業務統合により，研究室や部局図書室に配架する書籍および雑誌についても，本館で一元的に管理する体制をとっている点は評価できる。
・遡及入力事業の 95%が達成されている点は優れている。
・全蔵書の約 95%が OPAC で検索でき，研究用図書の利用を促進していること。
・ほぼ学部別に図書室を持ち，より専門性の高いサービス環境を持っている。
・北海道関連（アイヌ民族等）の資料は大変充実しており，北海道の歴史はここの図書館に来ることでわかる。
・図書の登録，管理。

【改善の必要がある点】

・目録データの遡及入力をできるだけ速やかに推進すること。
・内外に北大の図書館の北海道関連の資料は充実しているということを展示などを通して知らせる必要がある。
・図書の移管。

【その他コメント】

・部局間，分野間に差があることが想定され，外部から把握しにくい。何を持って研究用図書の整備とすべきか理解できなかった。

Ⅲ　連携

１．学内

非常に優れている	●
良好である	●●
おおむね良好である	●
不十分である	●

【優れていると評価できる点】

・新たな連携先を見つけ，全学的な事業推進体制が進められている。
・学内の様々な部署と事業について積極的な連携を図っていること。
・他部署との連携を進め定期的な協働プログラムを持っている。
・教育や研究の各部署と協働。

【改善の必要がある点】

・より広範な学習支援や高度な研究支援を目指した共同プログラムの開発と実施。
・学部学生の学習サポートのための他部署との連携。
・図書館職員以外の教職員をもっと巻き込み連携をする必要がある。
・学習スペースの活用に関する連携。

【その他コメント】

・語学学習や情報リテラシーなどの領域で学部教育カリキュラムとの連携を強化してはどうか。

２．学外

非常に優れている	
良好である	●●●
おおむね良好である	●
不十分である	●

【優れていると評価できる点】

・北海道地区および全国レベルにおいて基幹大学としての役割を果たしている。
・北海道地区の基幹図書館として他の図書館を研修等の事業により積極的に支援していること。
・様々な接点を有効に活用している。

【改善の必要がある点】
・北京大学との相互交流協定が結ばれているにもかかわらず，交流活動が停滞しているように見受けられる。
・実現したプログラムの継続性についての具体的な検討。
・外の人は，北大の図書館についてあまりしらない。
・北海道の大学図書館間の連携。
【その他コメント】
・デジタルリポジトリ連合について持続性のある活動を期待する。

Ⅳ　社会連携と国際化

１．地域・社会貢献

非常に優れている	
良好である	●●●
おおむね良好である	●
不十分である	●

【優れていると評価できる点】
・市民への貸出サービスが行われている。
・北方資料を中心に展示やイベントが定期的に開催されている。
・市民に対する館外貸出サービスを実施し，貴重図書等の資料等の電子化とインターネット公開を進めていること。
・本館では学外の社会人利用が多い。
・スラブ，北方，アイヌ民族，開拓使など特徴ある専門資料の収集と提供。
・市民に対する生涯学習支援。
【改善の必要がある点】
・市民に対して，公共図書館とは異なる大学図書館としての「生涯学習支援」の視点を明確にする必要がある。
・展示やイベントの参加者が二桁に留まっており，積極的な広報活動が望まれる。
・北方資料以外のテーマ・書籍による企画展・特別展の実施。
・所蔵専門資料の活用機会を広げるいわゆるレファレンス・サービス体制の充実。
・看板などの多言語化の整備，地域に対しての展示，建物の入りやすさなどこれから開かれた図書館にする必要がある。
・展示・イベントの広報や入場者データの記録，図書に関する／図書を使った講演会などの工夫。

【その他コメント】

・展示については，常設展と企画展を区別することや，また職員の能力開発の観点から展示カタログの作成と頒布なども考えられてよい。
・展示会等の利用実績の把握と公表を期待する。
・EU 資料センターとして道内の他大学を含めた研究機関や研究者に対する広報活動や情報提供などの支援サービスを行う窓口を設置することによる地域貢献は考えられないか。

２．国際化への対応

非常に優れている	
良好である	●●●
おおむね良好である	●
不十分である	●

【優れていると評価できる点】

・多読図書コーナーや語学自習室が設けられ，利用者の評価も高い。
・国連寄託図書館および EU 情報センターとしての役割を果たしている。
・北図書館における「多読図書コーナー」の設置と語学担当教員と連携した利用。
・施設・設備の環境充実。
・留学生用図書の充実，留学生向け図書館ガイドの作成。

【改善の必要がある点】

・「図書館利用案内」は日・英の二種類が作成されているが，留学生の数からすれば中国語と韓国語についても整備することが望ましい。
・避難経路や出口案内が日本語だけの場所があるので，少なくとも英語の併記が必要である。
・留学生の大半を占めるアジアからの留学生に対するサービスを充実すること。
・留学生・研究生の在籍数からみて十分とは言えない。
・北図書館国際交流コーナーのコンセプトをより明確にした資料充実。
・利用案内の多言語化。
・留学希望者に対する語学以外の支援，留学生に対する研究支援。
・英語論文を読み書きするための継続的なサポート。

【その他コメント】

・道内他大学との比較では優位であり，このレベルの大学図書館として標準なのかもしれないがより一層積極的な対応が必要だと感じる。
・国際化を語学のみならず「世界の中の北大図書館」のような大きな視点でとらえていくと，さらに充実した図書館としてのサービスが構築できるのではないかと思いました。

Ⅴ　組織運営

１．組織

非常に優れている	●
良好である	●●
おおむね良好である	●●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・図書館職員の一元化や業務統合など，改革が順調に進んでいる。
・研究開発室を設置し，室員４名を配置している。
・部局図書室の職員を附属図書館の事務部に一元化したこと。
・図書館情報システムを着実に進化させている。
・初年次教育の学習支援のための図書館組織がある。
・組織改編。

【改善の必要がある点】

・完全統合が進んでいる半面，部局図書室の職員が交代要員なしには昼休みもとれないような状況は，学生アルバイトを手当てするなど，何らかの改善が必要である。
・研究開発室については，年度ごとの課題設定を明確にし，その成果について報告書（年報）を作成することが望ましい。
・サービス担当者のみが配属されている部局図書室で高度な研究支援を行うことができる「サブジェクト・ライブラリアン」の育成と配置。
・業務統合後の部局図書館の任務・役割の明確化と部局間落差の改善。
・若手職員の人材育成。
・学部図書館における学生協働。

【その他コメント】

・単なる業務統合ではない，より効果的なサービスのための改善であることを願う。

２．予算

非常に優れている	●●
良好である	●●
おおむね良好である	
不十分である	●

【優れていると評価できる点】

・外部資金等を積極的に獲得している。
・積極的に外部資金の獲得に努め，事業を拡張してきたこと。
・特定経費や外部予算獲得の成果が継続的に見られる。
・外部資金の活用。

【改善の必要がある点】

・どこの大学でも予算の削減，光熱水料の高騰は悩みの種だが，学内各セクターと連携して事業資金の獲得に努め，同時に経費削減に努力されたい。
・今後の年次計画をどう組み立てるのか予算獲得の面からの検討。
・備品等の統一など，施設毎のバラバラ感を無くす必要があり，予算をかける必要がある。

【その他コメント】

・附属図書館独自の収入を上げる方策の検討が期待される。
・国立系総合大学として，予算獲得が比較的しやすい環境なのだと感じられるが，今後の厳しい経営に対応できる基礎力が求められる。

３．施設

非常に優れている	●●
良好である	●
おおむね良好である	●●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・本館は附属図書館再生事業によって，見違えるほど施設が整備された。
・本館の再生事業により図書収容力が大幅に向上し，快適な学習支援施設の整備ができたこと。
・現時点では北図書館が増築改修中ではあるが，全体として更新が着実に進んでいる。
・本館の設備。

【改善の必要がある点】

・本館に比べて北図書館は，利用者数が多い割には閲覧座席が不足するなど，施設の貧弱さが目立つ。現在進行中の増改築の成果に期待したい。

・本館のメディアコートの利用については，さらなる工夫が必要である。懇談の時にも話しましたが，メディアコートについて，圧迫感があるなど 10 人に 1 人という割合でいるというお話でした。利用は，1 人よりも複数の場合もあり，グループに 1 人でもメディアコートの空間がダメな学生がいたらそのグループはメディアコートの利用はせずに他の場所に行くはずである。なぜ，気分が悪くなるのかなどの調査は必要に感じる。

・北図書館の設備。

【その他コメント】

・新棟の増築工事による今後の北図書館の整備が期待される。

・北図書館における学部初年次学生を意識したアクティブ・ラーニング・スペースの実現に期待したい。

４．図書館情報システム

非常に優れている	●●
良好である	●●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・システムの更新や改修が着実になされている。

・学内の他部局と連携し，システムを構築していること。

・現時点で完成度の高いシステムである。

・検索や複写・貸借などの機能の向上。

【改善の必要がある点】

・紙媒体の資料と電子情報資源が混在するハイブリッド環境下で新たなプラットフォーム（例：ディスカバリーサービス）を導入すること。

・アクセス負荷についての検証や改善。

【その他コメント】

・利用者アンケートを見るとかなり厳しい意見が出ている。

５．図書資産の管理

非常に優れている	●
良好である	●●
おおむね良好である	●●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・研究室所蔵図書の蔵書点検について，「マニュアル」が作成されている。

・全所蔵資料のデータベース化が進んでいる。

・課題の抽出と方針の決定。

【改善の必要がある点】

・上記の「マニュアル」に沿って，迅速かつ的確に蔵書点検を進める必要がある。

・承継資産についての蔵書点検をできるだけ速やかに行うこと。

・研究室所蔵図書の点検。

６．安全管理

非常に優れている	●
良好である	●●●
おおむね良好である	●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・「防災マニュアル」が定められ，防災訓練が行われている。

・マニュアルを作成し，防犯，防災に対処していること。

・本館においては完成度が高い。

・防災マニュアルの整備。

【改善の必要がある点】

・東日本大震災の教訓としては，防災訓練は図書館職員だけでなく，利用者にも参加をお願いするような形で行われることが望ましい。

・北図書館の本館との落差。

・防犯カメラ以外のリスクを軽減するためのマネジメント。

７．広報

非常に優れている	●
良好である	●●●
おおむね良好である	
不十分である	●

【優れていると評価できる点】

・刊行物，ホームページ，Facebook などを通じて多角的な PR を行っている。
・「楡蔭」は学生の参加が見られ，好ましい編集姿勢となっている。
・刊行物，図書館ホームページ，Facebook の三つの媒体の特性を活かし，広報を行っていること。
・広報手段をフルに活用している。
・楡蔭，Facebook。

【改善の必要がある点】

・学習支援や研究支援についても，図書館ができること，サービス体制について，来客を待つ姿勢ではなく，積極的に学生や教員にアピールする必要がある。
・学務部等と連携した広報を学生に行い，図書館サービスの周知を図ること。
・それぞれの広報のターゲットをさらに絞った効果的な活用の検証。
・外部や内部に対しても利用を促進する広報が必要である。利用されるのを待つのではなく，利用してもらう工夫が必要である。
・利用者とのコミュニケーション。

【その他コメント】

・附属図書館の１年間の事業をまとめた「附属図書館年報」の創刊は注目に値する。

８．点検評価

非常に優れている	●
良好である	●
おおむね良好である	●●●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・平成 25 年度の「自己点検・評価報告書」は充実した内容となっている。
・大変充実した「平成 25 年度北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書」を作成し，こ

れに基づいた課題の把握と解決を進めていること。
・制度として完璧である。
・目標・計画の設定と評価の実施。

【改善の必要がある点】

・自己点検評価が平成 15 年以来 10 年ぶりというのは，怠慢といわれても仕方がない。事務職員の異動も考慮すれば，３年ごとの自己点検評価，６年ごと（中期目標・中期計画期間）の外部評価といったサイクルを確立することが望ましい。
・附属図書館の自己点検・評価のサイクル（例：５年）を確立すること。
・利用者の声をどのように反映させるかについてさらに努力が必要。
・定期的な外部点検評価。

【その他コメント】

・20 年先を見越した附属図書館の将来計画の策定が期待される。
・アンケート調査の対象が現在の利用者に限定されないような工夫が必要と思われる。（可能な限りステークホルダー全体に対する調査を目指すべきである）

《自由意見等》

・附属図書館外部評価報告書を大学執行部等のステークホルダーに対する図書館の現状と課題の説明，予算等確保のツールとして活用していただきたい。
・自己点検・評価と合わせて行った「附属図書館利用者アンケート調査報告書」の自由記述を分析し，積極的かつ迅速にサービスの改善に努めていただきたい。
・自己点検・評価報告書で課題として上げた事項を定期的にレビューし，進捗を確認するとともに改善に努めていただきたい。
・大変充実した自己点検・評価報告書を始めとする資料を準備し，ややタイトな日程ではありましたが，施設見学，職員や学生との意見交換の場を設けていただき，円滑な外部評価を可能とした望月副図書館長を初めとする附属図書館の皆様のご努力とこのような機会を設けていただいたことに深く感謝いたします。
・今回，最も身近な総合大学の附属図書館について考える機会が与えられました。これだけ短時間で貴図書館ならびに貴学の評価を行うことは到底無理と思いましたが，これまでの評価報告書の細かな内容や，アンケート調査の全文公開，職員の方々や学生などとの意見交換の時間が設けられていることなど図書館経営についてのひとつのモデルを提示されていると感じました。当然これが国立大学の標準なのだと思いますが，他大学の評価をすることは同時に自校の客観的な評価にも繋がり，大変貴重な体験をさせていただきました。貴図書館の一層の発展を期待しております。
・図書館という施設を気持ちよく使ってもらうという視点は必要である。裏方の部分が利用者に見えないような工夫をした方がいいように感じた。職員が一人一人最高の図書館を作るんだという意識がもう少し必要ではないかと感じた。

Ⅱ　記　録　資　料

１．進捗記録

平成 26 年	
７月 11 日	図書館委員会において外部評価を実施することが了承され，「平成 26 年度北海道大学附属図書館外部評価実施要領」及び委員会の設置が承認された。なお，委員の人選は館長に一任された。
７月 15 日	委員５名を人選し，委嘱依頼文書を発出した。
８月７日	日程照会の結果，外部評価委員会を９月５日（金）に開催することとし，開催通知文書を発出した。
８月 12 日	外部評価委員会の事前配付資料を送付した。
８月 29 日	学生協働 WG に外部評価委員会への協力を依頼し，図書館学生サポーター５名が参加することになった。
９月５日	外部評価委員会を開催した。
９月８日	「評価シート」様式（電子ファイル）を各委員に送付した。
９月 30 日	外部評価委員会（９月５日）の議事メモ，附属図書館の概況説明で使用したパワーポイント資料，外部評価報告書構成案を各委員に送付した。
11 月５日	全委員から「評価シート」を提出いただいた。
12 月 22 日	野家委員長から外部評価総評を提出いただいた。 「平成 26 年度北海道大学附属図書館外部評価報告書」全体案を各委員に送付し，点検を依頼した。
平成 27 年	
１月 16 日	一部修正の上，上記案が承認された。
３月 17 日	「平成 26 年度北海道大学附属図書館外部評価報告書」を図書館委員会に提出した。

２．外部評価実施要領

平成 26 年 7 月 11 日
図書館委員会承認

１．目的

北海道大学附属図書館は，平成 25 年度に実施した自己点検・評価結果の内容を検証し，その客観性・公平性を担保するため，外部有識者による評価を実施する。同時に関係者へのヒアリングや実地視察によって得られた知見を提供いただき，附属図書館のサービス向上と機能強化に役立てることを意図している。

２．実施方法

⑴『平成 25 年度附属図書館自己点検・評価報告書』等の資料による評価
⑵ヒアリングによる評価
⑶実地視察による評価

３．実施視察対象図書館・室

本館，北図書館，部局図書室のうち数部局

４．外部評価委員（５名）

⑴教育学習支援に関する有識者
⑵研究支援に関する有識者
⑶地域・社会貢献に関する有識者
⑷国際化対応に関する有識者
⑸組織運営に関する有識者

５．日程

７月上旬　　実施要項の策定，委員
７月下旬　　委員委嘱手続き
８月初旬　　外部評価資料を各委員に送付
９～１０月　外部評価委員会を開催（ヒアリング，実地視察），レポート作成依頼
１２月まで　委員よりレポート提出
１～２月　　事務局にて，外部評価報告書（素案）作成
３月上旬　　外部評価委員会（メール審議を予定）にて，『外部評価報告書』確定
３月下旬　　図書館委員会に報告

３．外部評価委員名簿

委員長

野　家　啓　一（のえ　けいいち）		東北大学・総長特命教授
大　島　寿美子（おおしま　すみこ）		北星学園大学・教授
加　藤　信　哉（かとう　しんや）		筑波大学・附属図書館副館長
下　田　尊　久（しもだ　たかひさ）		藤女子大学・准教授
松　澤	衛（まつざわ　まもる）	北翔大学・准教授

４．外部評価委員会事前配付資料一覧

１．平成 25 年度北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書
（平成 15 年度～24 年度）
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/55261

２．附属図書館利用者アンケート調査報告書（平成 26 年３月）
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/55261

３．「〈新館紹介〉北海道大学附属図書館」
（「大学図書館研究」97 号，pp.90-98，2013 年３月）

４．北海道大学概要 2014～2015
http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gaiyou/2014/

５．北海道大学附属図書館概要 2014
http://www.lib.hokudai.ac.jp/uploads/2014/06/gaiyo2014.pdf

６．北海道大学附属図書館報「楡蔭」　No.145～149
http://www.lib.hokudai.ac.jp/about/publications/#yuin

７．北海道大学附属図書館本館利用案内 2014（日本語版）

８．Hokkaido University Library Guide 2014
（北海道大学附属図書館本館利用案内英語版）

９．北海道大学附属図書館北図書館利用案内 2014（日本語版）

５．外部評価委員会次第・配付資料一覧

日時： 平成２６年９月５日（金）１０：３０～１７：００
場所： 北海道大学附属図書館

内容：
- 附属図書館概況説明
- 実地視察（附属図書館本館・北図書館・経済学部図書室）
- 学生懇談会
- 職員懇談会
- 講評

配付資料：
１．平成２６年度北海道大学附属図書館外部評価委員会関係者名簿
２．平成２６年度北海道大学附属図書館外部評価実施要領
３．平成２６年度北海道大学附属図書館外部評価委員会日程
４．評価シート
５．附属図書館年報２０１４

実地視察場所



※　実地視察を行った図書館を枠で囲って示す。

６．外部評価委員会関係者名簿

◎外部評価委員

野　家　啓　一（のえ　けいいち）	東北大学　総長特命教授
大　島　寿美子（おおしま　すみこ）	北星学園大学　教授
加　藤　信　哉（かとう　しんや）	筑波大学附属図書館　副館長
下　田　尊　久（しもだ　たかひさ）	藤女子大学　准教授
松　澤　　衛（まつざわ　まもる）	北翔大学　准教授

○北海道大学附属図書館

新　田　孝　彦（にった　たかひこ）	館長
望　月　恒　子（もちづき　つねこ）	副館長
富　田　健　市（とみた　けんいち）	事務部長
江　川　和　子（えがわ　かずこ）	管理課長
豊　田　裕　昭（とよた　ひろあき）	利用支援課長
片　桐　和　子（かたぎり　かずこ）	学術システム課長

○「学生との懇談会」参加者

沼　崎　麻　子（ぬまさき　まこ）	理学院博士３年
梶　原　孝　則（かじはら　たかのり）	工学院修士１年
蒔　苗　詩　歌（まきなえ　しいか）	教育学院修士１年
阿　部　美　聡（あべ　みさと）	農学部４年
石　川　佐和子（いしかわ　さわこ）	法学部３年

○「職員との懇談会」参加者および視察対応者

管理課	平　田　栄　夫（ひらた　よしお）	図書受入担当係長
	中　村　　陽（なかむら　あきら）	雑誌受入担当係長
	山　崎　佳　子（やまざき　よしこ）	雑誌受入担当（H25.4 採用）
利用支援課	首　藤　佳　子（しゅどう　けいこ）	課長補佐
	金　子　　敏（かねこ　さとし）	課長補佐
	吉　竹　　忍（よしたけ　しのぶ）	課長補佐（北図書館担当）
	猿　橋　キヨミ（さるはし　きよみ）	北方資料担当係長
	河　野　由香里（こうの　ゆかり）	学習支援企画担当（H23.10 採用）
	高　野　直　樹（たかの　なおき）	経済学研究科・経済学部図書担当係長
学術システム課	梶　原　茂　寿（かじわら　しげとし）	システム担当係長
	松　尾　真木子（まつお　まきこ）	システム担当係長
	中　條　将　喜（なかじょう　まさき）	目録担当係長

【事務担当】

鵜　澤　和　往（うざわ　かずゆき）	管理課課長補佐
佐　藤　洋　子（さとう　ようこ）	管理課庶務担当係長

７．外部評価委員会日程

平成 26 年９月５日（金）10:30～17:00
於：北海道大学附属図書館

	時間帯			場所
①	10:30～10:50	開会挨拶（副館長） 委員長選出，参加者紹介，本日の日程説明	20 分	大会議室Ａ
②	10:50～11:20	附属図書館の概況説明（部長）	30 分	
③	11:20～12:00	実地視察：本館	40 分	移動
④	12:00～13:00	昼食：学生との懇談	60 分	大会議室ＢＣ
⑤	13:00～14:45	実地視察：北図書館，経済学部図書室	105 分	移動
⑥		（休憩）	15 分	
⑦	15:00～16:00	職員との懇談，質疑応答	60 分	大会議室Ａ
⑧		（休憩）	10 分	
⑨	16:10～16:30	講評打合せ	20 分	大会議室Ａ
⑩	16:30～16:50	講評	20 分	大会議室Ａ
⑪	16:50～17:00	今後の予定説明 閉会	10 分	
⑫	17:15～19:00	情報交換会		

８．外部評価委員会記録

日時：　平成２６年9月５日（金）１０：２４～１６：５５
場所：　北海道大学附属図書館

●　北海道大学附属図書館概況説明等

時間：　１０：２４～１１：２０
場所：　北海道大学附属図書館本館４階大会議室Ａ
出席者：
〇外部評価委員会委員：
　野家啓一委員長，大島寿美子，加藤信哉，下田尊久，松澤衛各委員
〇北海道大学附属図書館：
　望月副館長，富田事務部長，江川管理課長，片桐学術システム課長
　（陪席：鵜澤管理課課長補佐，佐藤庶務担当係長）
内容：

- 富田事務部長の進行で委員会開会。（進行役は委員長が選出されるまでの間）
- 望月副館長から委員を紹介。
- 委員長に野家委員を選出。
- 委員による自己紹介。
- 北海道大学附属図書館参加者の自己紹介。
- 江川課長から外部評価の概要，本日の日程の説明。
- 富田部長から北海道大学附属図書館の概況の説明。昨年の自己点検・評価報告書に対する対応が今どうなっているかについて概況として報告。

質疑：
委員）北図書館の役割と機能について簡単に説明してほしい。
北大）当初は教養課程の図書館だったが，教養課程がなくなった後は，キャンパス北部地区の図書館という位置づけに変わった。本館と北図書館をあわせて附属図書館と呼んでいる。北部地区に多い１～２年生向けのサービスを主に担当している。
委員）では，本館は理系・文系，両方を担当していることになるのか。
北大）そうである。

●　実地視察：本館

時間：　１１：２０～１２：０３
場所：　北海道大学附属図書館本館
出席者：
〇外部評価委員会委員

○北海道大学附属図書館：

説明：首藤利用支援課課長補佐，猿橋利用支援課北方資料担当係長

（随行：富田事務部長，鵜澤管理課課長補佐）

内容：

- 首藤課長補佐の案内で館内を実地に視察。
- 順路：グループ学習室（４階）→ラウンジ（３階）→玄関ホールの展示（２階）→カウンター前自動化書庫出庫表示案内（２階）→蔵書検索端末（２階）→自動貸出機（２階）→オープンエリア（南棟２階）→インフォメーションデスク（南棟２階）→自動化書庫（地下）→閲覧室（南棟３階，４階）→語学自習室（南棟４階）→多読コーナー（南棟４階）→新聞閲覧コーナー（南棟４階）→書庫（３階）→メディアコート（２階）→北方資料閲覧室（２階）→貴重資料室（２階）→西書庫２階（北方資料関係）
- 自動化書庫について：本館改修時に設置された。収容能力は図書で 53 万冊。現在は製本雑誌 32 万冊を収容。温度 20℃，湿度 40%で管理している。年に４回メンテナンスを実施しているが，メンテナンス費用はかなり高額。出庫指示をしてからの処理時間は約５分。新しく製本された雑誌は随時収納している。
- 書庫の利用について：大学院生は入庫可能。学部学生は，書庫利用ガイダンスを受講すれば入庫可能。
- 貴重資料室は室温 20℃，湿度 55%で管理している。
- 北方資料で一番利用が多いのは，クラーク博士の肖像画の写真である。

質疑：

委員）インフォメーションデスクではレポート作成のサポートも行うのか。

北大）そうである。調査支援担当２名が交替で行っている。

委員）メディアコートに入るときは入館ゲートを通る必要があるのか。

北大）そうである。

委員）イベントの際，自由なアプローチができなくなるのではないか。

委員）アイヌ民族関係の資料は所蔵しているのか。

北大）所蔵している。集約して書庫に配架している。

● 学生との懇談・昼食

時間：　１２：０５～１３：０５

場所：　北海道大学附属図書館本館４階大会議室Ｂ・Ｃ

出席者：

○外部評価委員会委員

○懇談会参加学生

○北海道大学附属図書館：

富田事務部長，江川管理課長，鵜澤管理課課長補佐

内容：

- 江川課長の司会で学生と懇談。

北大）参加学生の紹介。全員が学生サポーターである。

学生・文系大学院）学生サポーターは２年目。その前から図書館サークル「サポロ」に参加していた。転入前の短大で司書・司書教諭の勉強していたため，図書館サークルや学生サポーターに興味を持ち，参加するようになった。北大の図書館は最初に「すごく使われているな」と感じた。室内が明るく，座席が多く埋まっていて，学生の学習の中心の場になっているという印象。

自分の研究分野は必ずしも多くの文献が必要というわけではないが，図書館には定期的に来ている。研究室にずっと籠もっていて雰囲気を変えたいときには，図書館へ行きたくなる。教職課程を取っているので，他学部の学生と協力して模擬授業を考える際，オープンエリアやメディアコートのようにディスカッションできる広い場所をよく使っている。

北図書館は，ちょっと遠いが，個人用閲覧ブースというパソコンがおいてあって，仕切りがあって一人になれる部屋があり，一人一日最大６時間借りられる。パソコンで文書や簡単なプログラムを作ることもできるので，籠もってプログラムを作ったりしている。

北大は構内が広いので移動が大変な面もあるが，各図書館にはそれぞれの良さがある。複数所蔵があれば近くの教育学部図書室で借りたり，文学部の図書室は書庫が夜 9 時まで開いているので夜間に利用したり，自分では結構使い分けができているのではないかと思っている。

学生・理系大学院）北大には 10 年以上所属しており，図書館は学部時代から使っている。ネット環境の整備が進むに従って，サービスが進化していることを肌で感じている。今ではネットで貸出の延長手続きが可能だが，以前はカウンターまで本を持って行く必要があった。また，パソコンの台数も大幅に増えた。

一方，北図書館の視聴覚コーナーは以前から資料が充実していた。サービスが進化しつつも，以前からの良い点は今も続いている。

自分は文系出身で，もとは日本近代史を専攻しており，戦前期の雑誌，たとえば文藝春秋などを使って研究していた。中央公論に掲載された吉野作造の論文を見つけたときは感動した。今は論文の利用が中心となっているが，図書館にはずっとお世話になっている。理学部の図書室も使っている。

学生サポーターとしては，現在，広報部門に所属し，Facebook などの情報発信を行っている。EU フレンドシップウィークの時は音楽の提案，選書ツアーへの参加などを行った。

学生・理系大学院）工学部に所属しているので，一番使っているのは工学部図書室である。二番目は北図書館。北図書館は工学部の隣に位置しており，工学分野の図書が割と充実している。本館はあまり使わない。

工学部図書室で一番使うのは教科書や参考書などの専門書である。論文やデータベースも使っている。ジャーナルは全てネットで閲覧するので，図書室へ行って使うわけではない。ネットで購読しているジャーナルの量はそこそこあるが，海外系のジャーナルが足りない点は

若干不満に思っている。
洋書など，必ずしも揃っていないことがあっても，２万円未満の価格なら，注文すればかなりの頻度でリクエストに応えてくれる点は非常に役に立っている。
また，自分は海外の大学院の博士課程へ進学することも考えているので，図書館に一定程度の語学教材が揃っていること，多読資料が一つのコーナーにまとまっていること，さらに語学学習室が設置されていて，リスニング関係の資料を利用でき，NHK のラジオ講座が数年分全部揃っているなどの環境があるので，語学学習に関してはかなり充実していると感じている。ただ，語学学習室は，本館に個室ブースがあるのに対して，北図書館は狭い所に何人かが詰め込まれる感じである。北図書館ももう少し進化してくれないかなと思う。
学生サポーターの活動は２年目。選書，選書した図書の書評を書いての展示，オープンキャンパスのイベントと展示企画などを担当してきた。今年度からは広報にも参加している。Facebook に投稿したりして，図書館の企画や便利なサービスをどうやったら学生に周知することができるかを検討している。
データベースは，学部１年の頃，日経テレコンがないとかジャパンナレッジがないとか不便を感じるところがあったが，ここ２，３年で一気に進歩したと思う。リモートアクセスが可能なデータベースも増えて，非常に重宝している。北大に在籍した４年半の間に図書館が色々な機能の面で徐々に進歩してきているので，今後もこのペースで良くなってくれるといいな，と思っている。

学生・文系学部）授業のあるときは，最低でも週３，多いときは毎日，図書館を利用している。
法学部棟と図書館は渡り廊下でつながっているので，それが，とても行きやすい理由になっている。
図書館を使っていて感じるのは，居心地の良さである。集中して勉強できる場所もあるし，勉強に疲れたときはメディアコートやラウンジなど休める場所もある。高校生までは自習室や図書館で勉強することが得意ではなかったので，あまり使ってこなかったが，大学に入ってからは，附属図書館ですごく勉強が捗る。
学生サポーターには今年から参加。選書ツアーで本を選んだり，オープンキャンパスのイベントに参加したり，ポスターを作ったりしている。図書館の裏側が見られてすごく楽しいので，在学中は続けていきたいと思っている。

学生・理系学部）図書館は，主に農学部図書室を卒論のために利用している。小説を読むことが好きなので，本館は小説を探すために利用している。また，専門分野の本でも一般向けの本や複数の分野にまたがっているような本は，農学部図書室よりも本館の方が充実している。専門分野に関わりなく，勉強したいことができた場合も本館で探す。農学部の所属だが，経済学の入門書も読んでいる。
図書館の良いところは，学術的な資料が入門から専門的なものまで揃っている点。特に菌類の学術的な図書は，なかなか日本語のものもないし，英語でも体系的にまとまったものはまだ出ていないが，図書館に来ると揃っている。それから，ディスカッションスペースがある

点。施設がとてもきれいな点。お手洗いがきれいな点。これは，個人的に非常に大事だと思う。それから，みんなが使う教科書を複数冊用意している点など。

学生サポーターとしては今年度から活動を始め，オープンキャンパスのイベントやお土産の企画を担当した。お土産のデザインでは，自分の趣味と図書館の需要があった活動ができて，非常に良かった。また，高校生向け展示企画「北大生の一週間」で自分の一日の活動を公開した。非常に好評なようで，うれしい。

委員）理系では，電子ジャーナルがあれば十分で，わざわざ図書館まで足を運ぶ必要はないと考える研究者が増えていると思うが，どうだろうか。理系大学院の学生さんにお聞きしますが，研究に紙の文献は必要ですか。

学生）必要です。電子ジャーナルも使いますが，あえて紙の文献を見ることもあります。実際に自分が使う資料のすぐ横に意外な資料が隠れていることがあるためで，そのようなことをねらって紙の資料を使います。

委員）海外のジャーナルが不足しているとの指摘があったが，これは，必要な電子ジャーナルに抜けているものがあるということだろうか。

学生）そうです。全てのジャーナルを網羅するわけにはいかないと思うので，私の分野がたまたま弱いだけかもしれないのですが，一番重要と言われているジャーナルが購読されていないので不便に感じている。

委員）電子ジャーナルについては，今，どこの大学も困っている。

学生）一部の出版社は，価格をふっかけていると言ったらおかしいが，そういう状況で購読誌を選んでいくのは大変なのかな，とは思っていて，仕方ないとあきらめているところもある。自分がわざわざ紙で読む文献には２種類あって，ひとつは絶版になってしまった，その分野の古典的名著と言われている本，もうひとつは，高額な洋書の場合，個人や研究室で購入するのが難しいので，図書館にあるとありがたい。

委員）先ほど，リクエストで買ってもらえる確率が高いという話だったが。

学生）はい。工学部図書室は，リクエストしてから１か月未満で届く場合もあり，かなりありがたい。

委員）ジャーナルをリクエストするルートはあるのか。

学生）年に一度，研究室経由でリクエストする制度があるというのを最近知って，年度末にリクエストしよう，ということになった。

委員）それで間に合うのか。

学生）間に合わない場合は，他大学や他の研究機関から入手している。

委員）先ほど，農学部図書室で大体のことは間に合うとのことだったが，そうすると，本館はディスカッション等に使っているということだろうか。

学生）そのような使い方もあるし，趣味の小説を読むために利用することもあります。学部２，３年生の頃は，プレゼンテーションのための資料や事例探しに本館を利用していました。

委員）昨年のアンケート調査報告書を読むと，高評価の部分もあるが，24 時間開館してほしい，マナーの悪い人がいるので何とかしてほしい，などの要望も多く見られた。皆さんから見て，図書館のここを改善してほしい，という点を教えてほしい。

学生）利用者のマナーについては，どうすればいいんだろうか，と思っている。去年，参加させてもらった道地区の図書館大会でも学生のモラルについて話が出た。他の大学図書館の方とのディスカッションで，学生サポーターは楽しい活動だけではなく，図書館（職員）とタッグを組んで，マイナスの部分をプラスにできるような活動ができたらいいのではないか，という意見があったが，具体的にどう実現すればいいのかは，あまり考えることができていない。図書館をみんなが快適に使うには，マナーを注意する活動に，図書館の職員だけじゃなく，学生が参加する方がいいのかな，と思っている。

学生）私が問題に感じているのは北図書館のコピー機。本当はいけないのだが，学生は平気で授業のノートのコピーを取るので，１台しかないコピー機が占拠されてしまい，他の人が全然使えなくなってしまう。

また，蔵書検索で研究室の図書がヒットしたとき，図書館が窓口になってくれたらありがたい。先生方が出張中で連絡が取れないと，他の大学から取り寄せる方が早いと思ってしまって，コストが掛かる。

それから，図書館ではペットボトルの持ち込みが解禁になったが，どうしても咳が出そうになったときのためにミントタブレットも解禁してくれるとありがたい。自分は咳が出やすい方なので。

あと，本当に個人的なことだが，自分のネット環境が，スマートフォンではなく，携帯電話しかないので，図書館の蔵書検索を使うと通信費が膨大なものになってしまう。また，ネットから本の延長手続きができないため，返却期限のアラートメールが届いても，図書館へ直接行くことができない場合は，延長をあきらめるしかない。携帯電話しかネット環境がない人もいると思うので，携帯電話にも対応してもらえるとありがたい。

学生）すぐには難しいかもしれないが，できれば改善してほしい点がいくつかある。一点目は，開館時間の延長。できれば 24 時間を。試験期間だけでもよい。また，学部図書室が土日の日中に開いていない点を改善してほしい。

二点目は，専門職員の配置。各学部図書室にその分野の修士号を持った，専門知識を持った職員がいて，学生の文献検索や論文の内容も含めて指導してもらえるといいのではないか。学部図書室の需要も広がるのではないか。

学生）ペットボトル以外の飲み物禁止のポスターはたくさんあるが，それ以外のマナーに関する注意喚起があまりされていないように思う。気になるのは，イヤホンからの音漏れや，パソコンの使用が禁止されているエリアでのパソコンの使用など。そういう些細なことも，私たちで啓発していけたらよいと思う。

学生）図書館への不満はあまりないが，本に書き込みがあったり，ページの端が折れていたりするのを見ると，いやな気分になる。本がかわいそうだと思うので，そういう利用をする人

を何とか減らせたらいいなと思う。

委員）ここにいらっしゃる皆さんは，図書館に関心があって学生サポーターになった方だと思いますが，図書館を全然利用していなくて，学生サポーターになってみたいと思った方はいらっしゃいますか。

（回答なし）

委員）いませんか。そうすると，今，モラルやマナーの問題が出ましたが，皆さんのようでない，図書館に関心の無いユーザーに対して，どのように働きかければ効果的だと思いますか。大学生に注意することは難しいと思います。図書館員の側からも難しい。何かアイデアはありますか。

学生）昨年度から図書館報の「楡蔭」がバージョンアップして，学生が出演するようになり，私も載せていただきました。教育学部では，それをゼミ室に貼ったりして，尋常じゃない注目度でした。先生方からも，声をかけていただきました。「楡蔭」で「図書館を使いこなそう」という特集をやって，リモートアクセスとかネットで延長手続きができる，というサービスを紹介したら，私の学部にはすっかり浸透しました。最初は友達が出ているからという理由で注目された広報誌だけど，ちゃんと中味も読まれていると思いました。それから，書庫は，ガイダンスを受けると学部生でも入れますけど，うちの学部は一気に参加が増えて，今度ガイダンス行かない？みたいになっていたので，マナーについても，私たち学生が，そういう媒体を通じて呼びかけるのもいいかな，と思っています。多分，実際に面と向かって，すみません，やめてください，とはなかなか言えないので。

委員）学生サポーターが，図書館の利用方法を後輩に教えるツアーはありますか？

学生）図書館の職員の方が新入生向けに OPAC や館内の案内をしていますが，学生サポーターはやっていません。

委員）学生どうしで先輩が後輩に，こういう風に使うんだよ，と教えるほうが。

学生）相談しやすさがありますね。

学生）マナー啓発について提案ですけれど，先輩から，こうやって使いましょうと言われても説教されているみたいでいやだと思ってしまうので，学生にマナー啓発の動画コンテンストを行って，北大の映像制作の先生とか学生に審査してもらって，１位の作品を図書館の Facebook で流すというのも面白いと思います。「No More 映画泥棒」みたいな楽しいのができれば。動画を作る人も図書館のマナーについて勉強になるし。

北大）そういうことをやってらっしゃる大学はありますか。

委員）FD 関係ではあります。授業をこういう風に受けましょう，私語はだめです，みたいなビデオを，学生が学生の目線で作って学生に見せる，というのをやっています。FD というのは授業改善という意味で，アンケート結果を見て先生が努力しなさい，というのが日本の主流なのですが，アンケートはもう行き詰まっています。学生の側にも改善することがあるだろうし，こう変えてほしいという要望もあると思うので，学生目線でどうやって授業や学校全体をよくするか，ということをやっています。

委員）東北大学には，SLA，Student Learning Advisor，と呼んでいる，大学院生のボランティアが新入生とか学部生の学習指導などをする制度があります。数学で分らないところがあると理学部の大学院生が来て教えてくれたり，語学でつまずいていると外国人留学生が英語の発音などを指導してくれたり，レポートの書き方に困っている学生がいると図書館で文献の探し方を教えるとか，あるいは図書館のラーニング・コモンズを使って学習指導をするとか，そんなこともやっています。

北大）筑波大学はいかがですか。

委員）ラーニング・アドバイザーという大学院生を７人ぐらい雇って相談を受けています。できれば語学も堪能，という人たちに来てもらっています。

それから，全く話が別ですけど，筑波大学附属図書館では，ボランティア制度というのを 20 年やっていまして，50 人を超える市民の方に来ていただいています。筑波ですから，外国でお仕事の経験があるなど語学が堪能な方もいらっしゃるので，外国からお客様がいらっしゃった時は，そういった方に案内していただくとか，障害者の方への対応をしていただくとか，しています。その他，名前を忘れてしまいましたが，お金を払って蔵書点検等の業務を手伝っていただくこともしています。

委員）先ほど，開館時間を長くしてほしい，という話がありましたが，実は，私どもの大学も，今は中央図書館だけに限っているのですが，学期期間中は 24 時までやっています。一方で，筑波学園都市もつくばエクスプレスができて，東京から通学可能になったので，夜よりも朝，朝は８時半からなので，８時から開館してほしいという意見もあります。あと，３学期制の大学だったのですが，去年から２学期制になりまして，休業期間中も土日は開けようということをようやく始めて，年末年始と夏季休業以外は開館しています。

学生部の職員の方は，安全面を心配していて，本当に大丈夫なのかといつも言われているのですが，皆さんは，図書館がどれぐらいまで開いていればいいと思ってらっしゃるのか。それから，夜間開館にどういうサービスがあればよいか，という点について，ご意見はお持ちですか。

学生）やはり夜間に全機能を提供するのは難しいと思うので，閲覧と貸出くらいの，図書館が本来コアとして持っているような機能さえあればいいのかなあ，という気はしています。場所として，使えるスペースは普段より縮小してもいいので。

北大）夜間もずっと勉強ができるスペースがあって，自動貸出機などで本の貸し出しができる，という感じですか。

学生）はい。

北大）北大でも将来的には北図書館で開館時間の延長を実現したいと思っています。北図書館の増築棟には，まず，アクティブラーニングのフロアを作ります。その次に，既存の北図書館を改築する予算がついたら，24 時間になるかは分りませんが，滞在型スペースも作りたいと考えています。しかし，まだ全然目処が立っていないので，皆さんの在学中には無理かもしれません。

さて，お話は尽きないと思うのですが，そろそろ時間になりました。本日はいろいろ貴重なご示唆をいただき，本当にありがとうございました。

● 実地視察：北図書館

時間：　１３：２５～１３：５０

場所：　北海道大学附属図書館北図書館

出席者：

〇外部評価委員会委員

〇北海道大学附属図書館：

説明：吉竹利用支援課課長補佐（北図書館担当）

（随行：江川管理課長，鵜澤管理課課長補佐）

内容：

- 吉竹課長補佐の案内で館内を実地に視察。
- 順路：正面玄関→閲覧室（２階）→マルチメディア公開利用室（２階）→閲覧室（３階）→留学生用図書コーナー・大型本コーナー（３階）→閲覧室（４階）→学術情報リテラシールーム（４階）→新営棟工事を４階閲覧室から見学→書庫

委員）視聴覚資料のメディア変換について

委員）語学自習室について

北大）新営棟では，外国人留学生との交流スペース設置を計画しているが，どのようにしたら活発に交流してもらえるだろうか。

委員）他の大学では，ラーニング・コモンズで留学生が先生となってセミナーを行っている例がある。これはボランティアではないようである。

委員）外国人留学生と北大生が互いに教え合うイベントや授業の場を提供することも考えられる。

委員）教員と連携して，参加型の授業を行うことも考えられる。

北大）新営棟は３月末完成予定だが，什器購入のための予算獲得が課題である。

委員）什器購入について，年度を越えて調達する計画はないのか。

委員）国立大学の場合，建物の建築工事と合せて一度に整備するケースが多い。それ以外では，年次で計画的に要求することがある。

委員）目的を指定して，寄付をお願いする方法もあるのではないか。東京大学の新図書館の例がある。

委員）書庫の収容冊数は？

北大）37 万冊。ほぼ 100%使用している状態である。

委員）新営工事で書庫の収容冊数は増えるのか。

北大）３万４千冊増える見込みである。

● 実地視察：経済学研究科・経済学部図書室

時間：　１４：１０～１４：３０

場所：　北海道大学附属図書館経済学部図書館

出席者：

○外部評価委員会委員

○北海道大学附属図書館：

説明：高野利用支援課経済学研究科・経済学部図書担当係長

（随行：江川管理課長，鵜澤管理課課長補佐）

内容：

- 高野係長から経済学研究科・経済学部図書室の概要（蔵書冊数，利用者数など），部局図書室の業務内容について，説明があった。

委員）土日の開室について利用者からの要望はあるか。

北大）検討したが，コスト面を解決できず，立ち消えになったようである。

● 職員との懇談・質疑応答

時間：　１５：００～１６：００

場所：　北海道大学附属図書館本館４階大会議室Ａ

出席者：

○外部評価委員会委員

○北海道大学附属図書館：

望月副館長，富田事務部長，江川管理課長，片桐学術システム課長，平田図書受入担当係長，中村雑誌受入担当係長，山崎雑誌受入担当係員，金子利用支援課課長補佐，吉竹利用支援課課長補佐（北図書館担当），猿橋北方資料担当係長，河野学習支援企画担当係員，梶原システム管理担当係長，松尾システム管理担当係長，中條目録担当係長

（陪席：鵜澤管理課課長補佐，佐藤庶務担当係長）

内容：

- 野家委員長の司会で職員と懇談（質疑応答を含む）。

委員）はじめに委員の方から，おひとりずつ大まかな感想を述べていただき，そのあと，個別的な質問に移りたいと思います。

委員）おおむね施設の方は十分かなと思いましたが，ケーブル類や消耗品がユーザーから見える場所においてあることが気になりました。あと，ここの倉庫みたいなところにグループディスカッションができる部屋がありますが，入ってくるときに使いにくい感じを受けました。気をつかっているとは思いますが，やはり後付けでケーブルやパソコンを設置しているので，どうしても使いにくさを感じました。例えば，ハブが貸出機の後ろに転がっていましたが，ああいうのがすごく気になります。抜かれたらどうするのだろうと思います。あるいはテーブルの下にケーブルを押し込んでいるところがありましたが，ユーザーに関係のないものは

なるべく見せないようにした方が良いと感じました。

委員）全体として見せていただいた状況をこれからも継続していただければいいかな，と思いました。ただ，それをどう管理していくか，どういう体制でサービスしていくのかが課題かと思います。施設内の経路が複雑で，アクセスのための色々な掲示があり，大変だなという印象を受けました。いろんな方が館に入られる状況をどうされていくのか。それから，身近な図書館としては，書庫が新しくできたり，新しいスペースができたり，短期間に変化しているなあと感じます。

委員）法人化，業務組織の集中化，図書館の再生計画ときて，総合大学として環境整備は大体できたのかな，と思っています。反面，これからサービスをどうしていくのか。筑波大学は40年前にバックヤードとサービスを完全に分離した図書館なのですが，いわゆるサブジェクト・ライブラリアンというのはできませんでした。今日もサポーターの学生の方からご意見がありましたが，今後，北大はどうされるのでしょうか。また，受入・整理とサービスを分けたことによって，基礎的な知識や技術を身につけた若手職員を，５年程度で本当に養成できるのか，ひとわたりの知識や技術が身につくのかという問題もあるかと思います。

次に，自己点検・評価報告書については，10年という期間について非常に良くまとまっていて，すぐれたものだと思います。逆に申しますと，利用者アンケートもそうですが，こういった自己点検・評価報告書をどうやってサービス業務の改善に結びつけていくのかが課題だと思います。また，附属図書館の中期目標・中期計画，年度計画が，自己点検・評価報告書と結びついた形になっていなかった点が気になりました。

三番目に，ぜひ外部評価も含めて，20年ぐらい先を見据えた将来計画を立てていただきたい。図書館の教育・学習機能，研究機能，それから職員の育成，キャリアパスみたいなものが，見えるようなものをお願いしたい。これは私どもとまったく同じ課題だろうと思います。以上です。

委員）非常に短期間のうちに，色々なことが変わっているということを強く感じました。建物も新しくなり，学生との懇談でもハードに関する不満というのはあまり聞かれませんでした。その裏返しになると思うのですが，やはり課題はソフト面，今日の午前中にも連携というのが一番弱い，というお話がありましたが，人と人とのコミュニケーションが関わる点ではないかと思います。グローバル対応が求められているということで，留学生と日本人学生のコミュニケーションを促進するには，もちろん場所を作ることがまずありますが，その場所をどう活かすのかが課題になってくると思います。強制的なソーシャライゼーションというのはうまくいかないと言われておりますので，どううまく，自然に，そういうものが生まれるような環境をつくるのか，そこに皆さんのお知恵を傾けていただければ，と思います。

それから，グローバル対応というと英語がすぐ思い浮かぶと思いますけれども，言葉だけではないと思うんですよね。異文化の中で，どう自分の意見を伝えるのか，価値観の違う人たちとどうコミュニケーションをとるのか，そういうことも含めて，グローバルという視点で環境を整えていっていただけたらと思います。

あと，もう一点ですが，世界から評価される図書館の目玉みたいなものがあるといいなあ，と思います。北大の強みを活かした何か，北大にしかない，あそこに行けばあの図書館があるとか。海外には結構あるんですよね，例えば，ハーバードだと，イェンチン・ライブラリーという中国や日本の資料がいっぱいある図書館があって，日本人の留学生は日本語に飢えるとあそこに行って日本の小説を読んだりするのですが，世界からこの図書館のここはすごい，北大のここはすごい，と評価される目玉を作っていただければ，と思います。以上です。

委員）今日は一日かけて施設を見学させていただき，非常に充実しているという印象を受けました。本館は新しくなって，メディアコートでしたか，大変魅力的な空間もできて，いろんな活用ができるな，という印象でした。それに比べて，北図書館は，机や椅子，所蔵図書も含めて，少し見劣りがしました。新営工事が終わった後の北図書館と本館の連携に大いに期待したいと思います。学生との懇談で，工学部の学生さんは，地理的な条件もあって，北図書館を使うことが多いと聞きました。そうすると，今後，理系や医学部の学生は，向こうを使うことが多くなると思いますので，少し北図書館の充実をお願いできればと思いました。

次に，外部評価，それから自己点検・評価も 10 年ぶりということですが，ちょっと間が開きすぎていると思いました。普通は，大体３年かそこらで自己点検をやって，５年に一度くらい外部評価をする，というくらいのペースが普通だと思うので，今後は予定を立てて，自己評価，外部評価をスムーズにやっていただければと思います。

北大は，ラーニング・コモンズの設置にせよ，機関リポジトリの HUSCAP にせよ，全国の国立大学の中では先駆的な役割を果たしてこられました。我々も，いろんな意味で，北大から学ばせていただくことが多かったのですが，学生の懇談の時に，図書館は居心地のいい場所だという感想を述べた学生がいました。それは大変いいことだと思います。ハード面は非常に充実していますので，これをどう活用していくか，ソフト面でアメニティスペースを構築していくことに，職員の方々が努力される余地はまだまだあるのではないかと感じました。

それから，ここに英語の利用案内がありますが，中国語や韓国語のバージョンはまだ無いのでしょうか。

北大）詳細版はありませんが，学生サポーターにボランティアで９カ国語の簡易版の利用案内を作ってもらいました。

委員）そうですか。留学生はアジアからが多いのですか。

北大）中国の方が多いので，次に作るとしたら，中国語バージョンになると思います。

委員）英語はスタンダードだとしても，少し多言語化を進めて，留学生が使いやすい図書館にしていただければ，と思います。

さて，おおまかな感想はこれくらいかと思いますが，次は個別的なことについて，お気づきになった点，確認したい点，あるいは苦言を呈したい点でも構いませんので，よろしくお願いします。

委員）自己点検・評価報告書によると，職員のワーキンググループが多数設置されて活動されているということなので，学内シェアード・プリント検討 WG について伺います。附属図書

館の再生事業で書庫スペースが整備されたけれども，より積極的に学内の重複資料の整備，あるいは配置を見直していくというために置かれたというふうに考えてよろしいのでしょうか。

北大）本館が新しくなってもスペース的に厳しい状況は変わりません。自動化書庫に関しましても，10 年経てば，ほぼ危ない状況になると思います。なぜかと言いますと，統合部局の文系図書室から製本された寄贈雑誌を受け入れていますので。各学部の図書館・図書室に関しましても，大きな工学部・理学部あたりはまだ余裕がありますが，中規模の図書室は危ない状況に陥っています。このような状況を背景に，まず学内の重複資料をどうするか，ということでできたのが，この学内シェアード・プリント検討 WG です。

他の大学と連携して保存書庫を作る，というのが本来だと思いますが，まず，学内の調整を優先してルールを作り上げて，今後，厳しい状況をクリアするために，学外連携を図りたい，というふうに考えて，このワーキンググループは作られています。ただし，学内でも，このルールに沿った実際のやりとりは，まだ行われていません。これがスムーズに動き始めたら，学外との連携も少しずつ話が出てくるのではないかと思います。

委員）道内の基幹大学として，そういう期待はあるのではないかな，と思います。

委員）次に若い職員の方にお伺いします。これから 30 年以上お勤めになると思いますが，ご自分たちが最終的にどういう職員になりたい，どういうことをしたいという具体的なイメージはお持ちですか。

北大）20 年前には存在しなかった職業が今は存在していて，図書館員の仕事も 20 年前とは大きく違ってきていると思うので，20 年後の自分は，おそらく，今自分が想像もしていない仕事をしているのではないか，という漠然としたイメージはあります。具体的にこういう仕事をしている，というのはありませんが，社会の動きが速くて，どんどん自分で勉強していかないと取り残されてしまうと常に思っているので，おそらく勉強し続けているだろう，という姿は思い描いています。

北大）30 年，40 年先のことは想像できていません。

委員）とりとめのない質問でしたが，意図としては，今やっている仕事はおそらく 10 年先も同じではないだろうと思っています。よく言われるのは，紙の資料が全部電子になってしまって，インターネットで流通する状況になったとき，図書館は，いったい何をするところなのか。先の話ではなくて，図書館は何をしなければいけないのかということを，今から考えておかないといけないと思います。その点から，資料を中心としたサービスではなくて，学習支援や教育支援という流れが出てきた，ということを考えていただきたいと思って，ちょっと突拍子もないことをお尋ねしました。

委員）若い職員の方は，なぜ図書館員になろうと思ったのですか。そして，そのスタート地点にたった今，皆さんはどんな図書館員になりたいのか。もしくは，将来の図書館のイメージはどうあってほしいのか。

北大）私は，具体的には想像できていませんが，おそらく将来も図書館職員が情報を整理し，

学び続けることを支援し，教育を支援する姿勢は変わらないのではないかと思います。自分が大学生だったときに想像していたのは，紙のコンテンツを中心としたサービスでしたが，紙が電子に変わり，将来，それが全く別のものに変わっても，図書館というのは，利用者の，ある意味，道標になるべきではないか，と考えています。

委員）研究者には，データベースがあれば図書館はいらない，と考える方もいらっしゃると思いますが，やはり必要だということでしょうか。

北大）はい。必要だと思います。やはり，専門のライブラリアン，例えば医学部ならば医学系に特化したライブラリアンがいなければ，支援は，難しいのではないか。やはり，北海道大学は総合大学ですので，違う観点から全学的な，そういう支援ができないかな，と考えています。

委員）メディアコートの有効な使い方についてアイデアがあったら，教えていただきたい。入ったときにすごく違和感があって，長くはいられないな，という印象を受けました。皆さん，どう思われますか。僕は，あの白い壁にすごい不安感を覚えました。圧迫感というか不安感というか。開放感はなかったですね。あそこはあのままでいいのか。個人的には，あの白い壁に絵を描かせたら面白いかな，青い空に白い雲の絵があったらいいかな，と思いました。実現の可能性は別にして，あの場所を有効に使うにはどうしたらいいかというアイデアがあれば，お願いします。

北大）アイデアではありませんが，現状をご説明しますと，メディアコートでは寝てしまうという人が多いようです。あの空間は，学内の方ならどなたでも利用でき，どのようなイベントでも利用できるようにしています。これから色々なイベントを行って，成功した結果お金が付くとか，周りから色々な声が上がってはじめて，動き始めるのではないだろうかと思っています。

もともと積層書庫の跡地で，憩いの空間として設計されたスペースではないので，消防法による制限や，音響の問題や，天井までが高いため暗幕が張れないなどの制約がたくさんあり，図書館側から，こういうことができる，という提案は，小規模なものしかできません。学生協働 WG を通じて，このスペースについても学生の意見を取り入れていきたいのですが，大きな規模になると動きにくいことがあります。しかし，少しずつでも拡大していければと考えているので，メディアコートの使い方については，ぜひ色々な方面からご意見をいただきたい。

委員）学生のアイデアには，どのようなものがありますか。

北大）例えば映画祭や美術展など。しかし，暗くできないという制約がありますし，大規模な美術展は，消防法の縛りがあるため，開催できない。もし，開催できるようになれば話題になると思うし，お金があれば，そういった施設的な縛りを解除できると思っています。学生にアイデアを出してもらうときは，どこが突破口になるのか分らないので，自由にアイデアを出してもらうようにしています。

委員）逆に条件を先に提示した方が，自由な発想ができるかもしれませんね。予算は 50 万し

かないとか，外の人は入れないとか，そういう条件をあらかじめ伝えた上で募集した方が，学生も自由な発想で考えられるのではないかと思います。

北大）大学博物館で「おしょろ丸展」という展示をやっていますが，３か月前に一緒にやらないか，と提案がありました。学生に聞いたら，やりましょう，やりましょう，という感じで，一緒に博物館に押しかけていって，使えそうなものをもらってきて，２週間後ぐらいに組み上げました。そんな降ってわいたイベントもあれば，図書館で選書ツアーをやって，選んだ本を展示しましょう，というような型どおりのものもあります。

今おっしゃったように，学生が考えた突拍子もないことを実現することができたら幸せなことだな，と思います。まだ，学生協働もようやく２年目で，これからもっと拡大していけたらいいな，と思います。

委員）他にございましたら，どうぞ。

委員）ご説明を聞いて，学生と一緒に何かを作っていこうという動きは強く感じましたが，教員との連携の状況についてもお聞きしたいと思います。もし，図書館委員会のようなところで，新しい試みをやっているのでしたら教えていただきたい。アンケート調査の結果を見ますと，結構辛辣な意見が先生方から出てきていまして，まあ大学の先生方というのはワガママなものなのですが，そういう先生方と接点を持って，新しい試みを一緒にやっていこうとか，または部局の壁を乗り越える試みのようなものはやってらっしゃらないでしょうか。

北大）昨年，北大でもようやく研究開発室を作りまして，今，兼務で研究開発員を委嘱している教員が４名いらっしゃいます。この先生方は，以前からボランティア的に図書館の活動をお手伝いいただいていた方々ですが，あらためて研究開発室員をお願いし，職員と協働する仕組みを作ったところです。北方資料担当から北方資料ワーキンググループ（以下，「北方資料 WG」）についての紹介をお願いします。

北大）北方資料という貴重な資料を扱える職員を増やすために，北方資料 WG という組織を作りました。各課から若手の職員に入ってもらって，月１回のペースで学習会等の活動をしています。そこに文学部の先生に入っていただいて，学習会では資料の扱い方の基礎や参考資料の探し方をご指導いただいています。北海道の歴史を専門とする先生で，以前から古書を選書する際に相談に乗ってもらったり，古い資料の解説をお願いしたりしていました。

北大）北方資料の他にも，国際本部の先生であったり，リポジトリに強い先生であったり，オープンエデュケーションに強い先生であったり，そういった方とそれを担当している職員との間でいくつかのワーキンググループを作って協働する作業を始めたところです。

委員）北方資料に関しては，道立図書館の北方資料室ですとかアイヌ民族文化研究センターとか，他にも札幌市内には非常に重要な資料を所蔵するところがあります。学外からの問い合わせが結構あると思いますが，レファレンスに対応できる窓口というのは，体制としてできているのでしょうか。

北大）そのようなレファレンスは，北方資料担当の職員が担当しています。以前ですと，道立図書館で対応できない北方関連のレファレンスがこちらへ回ってくることがありましたが，

最近は，あまりそういうことは無くなってきました。

委員）それは何か理由があるのでしょうか。

北大）道立図書館も体制が充実してきたからだと思います。また，MLA 連携ということで，道立図書館を中心に道内の博物館との連携が動き始めていて，こちらもそれに参加する方向で動いています。

委員）直接来られる利用者もいらっしゃいますよね。

北大）はい。

委員）それについては，こちらで対応しているのですか。

北大）こちらで対応しています。北大にない資料で，道立図書館等にある場合は，そちらを紹介しています。

委員）以前は北方資料室が独立していましたが，組織が変わりましたね。変わったことによるメリットとデメリットはあるのでしょうか。

北大）以前は北方資料室というものがありましたので，北方資料室担当者だけが出納やレファレンスを行っていました。本館の改修後，すべてのサービス担当職員が北方資料を扱うことになったので，どういう資料があるかという基礎的な知識が，職員全体に行き渡った点はメリットだと思います。デメリットは，北方資料を利用する方は，どちらかというと郷土史研究のご高齢の方が多いので，以前ですと，北方資料室に来て決まった人に話を聞けば良かったのですが，今は窓口に来て，誰に言ったらいいのか迷うところがあるみたいです。実際にはレファレンスを申し出た段階で北方資料担当か調査支援担当に振っていますので，問題は無いのですが。

委員）ありがとうございました。

委員）研究開発室では年報とか紀要を出される予定はあるのでしょうか。

北大）年１回，年次報告書というかたちのアウトプットを出していこうということで合意を得ています。

委員）ワーキンググループもきちんとできているということなので，期待したいと思います。

委員）大事なのは年報を出すことではなく，研究開発室として研究テーマを持って，ちゃんとしたアウトプットを出して，その報告が自然と研究年報になることが望ましいと思います。

委員）展示と貴重書について教えていただきたい。展示のレパートリーを見ますと，北方資料が大部分で，あとは EU 関連などですが，北海道大学附属図書館には，北方資料以外の貴重資料はございますか。

北大）貴重資料室にあるものの他には，農学校文庫というものが貴重資料となっています。あと，本当に貴重な写本類を 100 冊弱ぐらい，別置しています。展示となると，企画担当を北方資料 WG がしていますので，北方資料を使った企画と，大学の沿革資料を使った企画，大学文書館との共催が多くなっています。

委員）私どもの大学でも年１回企画展というのを行っているのですが，広く日本の古典や西洋の古典も取り上げるようにしています。社会貢献として地域の方に親しんでいただくために

展示を考えるのであれば，所蔵資料の強みとして北方関係の資料や大学関係の資料を使うことは当然ですが，それ以外にも何か親しみの持てるような企画を工夫されたらいかがかな，と思いました。

委員）展示では市民の方への広報も行なっていますか。市民の来館者というのは多いのでしょうか。

北大）大学の入口にある「エルムの森」という広報施設で，学外の方向けに広報をしています。学外の方も，図書館に来たついでに，という感じで結構展示を見てくれています。

委員）北大は，駅の近くという絶好の場所にあるので，それを活用していただければと思います。

委員）HUSCAP についてお聞きします。アンケート調査報告書を読みましたら，教員の評価が，全く役に立たないというのと非常に役に立っているというのと，真っ二つに分かれていました。また，HUSCAP の採録は違法に近い，やめるべきだ，という意見や，HUSCAP は無駄だと思う，学会誌に載せられない程度の仕事を載せる必要はない，という意見を見ると，どうも機関リポジトリに対する理解が教員の間に浸透していないのかな，という気がします。

私たち東北大学が TOUR というリポジトリを作るとき，困ったのは工学部です。工学部の博士論文は，どうも特許と関係があるらしく，論文をお願いに行くと，特許の申請が通るまでは出せない，ということで，掲載を拒否される事例が多くありました。こういったことにはどう対応しているのか，参考までにお聞かせいただければと思います。

北大）私たちもアンケートを読んでショックを受けました。HUSCAP 担当では，研究室訪問という形で，先生のお部屋を訪問して，研究自体の話を伺いながら，オープンアクセスや機関リポジトリについてご意見を伺う，という活動をしています。本当にひたひた，少しずつ，といった感じですけども HUSCAP の知名度が上がっていると思っていましたが，今回のアンケートで，まだ HUSCAP への理解が足りない部分があると感じましたので，研究者に向けた活動を続けていきたいと思っています。

また，オープンアクセスについては，研究分野ごとに意見交換をしていきたいと思っています。北大の場合は，文系の博士論文について，著作権等に関係して公表ができないという例があります。工学部は，学部として期限を設けて，期限内に問題を解決して公表可能にすることを検討しているようです。

委員）機関リポジトリに掲載する論文の情報はどうやって集めているのか。

北大）基本はセルフアーカイブですが，学内の紀要ですとか，また，セルフアーカイブだけでは不十分なので，Web of Science で北大の研究者の論文を検索して，こちらから働きかけをすることもしています。

委員）アンケートの中で図書館のインターネット環境について，遅いとかパソコンを開くのに時間がかかったとかのマイナスの意見が多くありましたが，何か対応は考えていますか。

北大）情報基盤センターが提供している ELMS という端末のことだと思います。ログインしてから立ち上がるまでにかなり時間がかかるのは確かで，この点についての認識は，情報基盤センターと図書館で共有していますが，図書館単独では解決できない問題です。

委員）図書館システムについて。次の更新はいつになりますか。

北大）平成 30 年になります。

委員）ディスカバリーサービスの導入を考えなければならない，と書かれていましたが，基本的に電子リソースがどんどん増えてきたときに，図書館としてはどのように利用環境を整備していくのか，という設計があって，具体的にディスカバリーの名前が出てきたということでしょうか。

北大）実は，今回の更新でもディスカバリーサービスを検討したのですが，予算的な制約があって導入できませんでした。様々な電子リソースをワンストップで検索するためにディスカバリーサービスが必要という判断から導入を検討したのだと思います。

委員）HUSCAP のコンテンツや電子化した北方資料も含めて，図書館にあるものないものを併せて，学術情報を適切に利用者に提供するという観点で，他の大学の状況を見ながら，導入をご検討されてはどうかな，と思いました。

委員）職員の方から外部評価委員に対して何か質問がありましたら。

（特になし）

委員）それでは，一時間にわたって質問に答えていただいてありがとうございました。これで職員の皆さんとの懇談会を終わります。

● 講評打ち合わせ

時間：　１６：１０～１６：３０

場所：　北海道大学附属図書館本館４階大会議室Ａ

出席者：

○外部評価委員会委員

（記録：鵜澤管理課課長補佐）

● 講評

時間：　１６：３０～１６：５５

場所：　北海道大学附属図書館本館４階大会議室Ａ

出席者：

○外部評価委員会委員

○北海道大学附属図書館：

望月副館長，富田事務部長，江川管理課長，豊田利用支援課長，片桐学術システム課長

（陪席：鵜澤管理課課長補佐，佐藤庶務担当係長）

内容：

- 講評の前に北海道図書館大会出席のため途中参加となった豊田課長から自己紹介。
- 委員長より講評の発表。

委員長）本日の外部評価の講評を行います。全てを申し上げることはできませんので，特に重

要と思った点を申し上げて，細かい点については，後日，各委員から評価シートに記載する形で報告させていただくことにしたいと思います。附属図書館のミッションの項目に従って，意見を申し上げることにします。
まず，教育学習支援について。施設設備については，改修がなされたこともあって，全く申し分がない。ただ，北図書館に関しては，今後の整備を期待したい。今日見学した限りでは，本館と比べてやや差がありましたので，増改築の結果を大いに期待しています。
そして，学習支援についてですが，設備は整っているのですが，具体的に活用するためのイメージとメニューについてもうちょっと具体的なプログラムを図書館の方から学生なり教員なりにアピールをする必要があるのではないか。容れ物はきちんとできているので，それをどう活用するかというアイデアを職員が中心になって作り上げ，こういうような活用の仕方がありますよ，ということを，特に教員に対して，授業を図書館と連携してやっていくとか，こういう授業の利用の仕方もありますよ，ということを積極的に発信していくことが課題ではないか，という意見が出されました。
その意味では，図書館からの発信がやや弱いというか，言葉が適切かどうか分りませんが，待ちの姿勢が見られる，こちらから積極的に打って出るのではなくて要望や何かを待っているというふうな姿勢があるので，むしろ，学生や市民，教員に対して積極的にこちらから使い方をアピールしていくことが必要ではないか。
学生に対しては，知識の全体像というか，ある研究分野に関するパースペクティブを提示して，学生がより深い学問レベルに達するための，大まかな道筋が分かるようなアイデアというか活用法を提示することが図書館の役割ではないか，ということでした。
そして，学生サポーターの活用が非常にうまくいっているようで，学生との懇談でも，皆さん，非常にエンジョイしながら図書館の活動に関わっておられる。これは全国の図書館でも一つのモデルケースになるようなシステムであると感じました。
次に研究支援について。電子ジャーナル，データベースは極めて充実している，というのが，積極的に評価すべき点だということです。電子ジャーナルとデータベースは，持続的な利用と継続的な整備をするために，一方では国大図協や JUSTICE のような組織を活用するとともに，やはり学内の各部局との連携ということをもう少し強めていっていただきたいと考えます。つまり，部局で独自に整備しているようなものもありますので，その点を無駄にならないように図書館側と連携しながら活用していくようなネットワークを構築してほしい，ということです。
第三に社会貢献と地域貢献について。社会人の利用が大変多いし，アンケートにも積極的に加わっていただいているということは，大変高く評価できると思います。ただ，ミッションの中に「地域住民の生涯学習を支援する」という項目があるのですが，やはり，大学図書館には公共図書館の生涯学習支援とは別の形の支援がありうるので，その像がまだ明確に描けておられないのではないか，と考えます。大学図書館が提供できる生涯学習支援というのはどういうものか，という点についてもう少し具体的なイメージを形作っていただきたい。

北大は，北方資料と EU 関係資料という非常に大きな財産を持っているわけですが，普通ですと，展示会とあわせて講演会を開催したり，展示資料についてのパンフレットを作成したりするのですが，そういったことがなされているか，きちんと検証していただきたいと思います。北大は，大きなスペースを持っていますし，地の利を持っていますので，それを十分に活用するためにも，積極的な広報活動が必要で，ここでも，待ちの姿勢よりは，市民を巻き込むような積極的な姿勢があった方がよいでしょう。また，職員の努力と成果をパンフレット等の形できちんと残しておくことが，職員のやりがいにもつながるのではないか，ということです。

学生との懇談で，居心地の良いアメニティスペースということが出てきました。名古屋大学では，確かスターバックスを図書館の入口のところに作っています。東北大は駅や繁華街から非常に遠いので，一度交渉しましたが，断られました。北大は地の利がよいので可能ではないでしょうか。最近は，カフェを併設する国立大学の図書館も出てきていますので，そういうことも考えられてはいかがか，ということです。

第四に組織運営に関して。組織改革をされてから，その成果は順調に見られているのではないか。ただ，本館と部局図書室の関係については，まだ理想的な姿とは言えないので，本館と部局図書室との間で，柔軟で有機的な連携，運用，人材配置を行っていただきたい。先ほど，経済学部図書室で聞いたのは，昼休みに本館から代わりの人を派遣しているということでしたが，部局の予算で学生アルバイトを雇ってもらって手当をするとか，あるいはピアサポーターといった方に援助をお願いするとか，部局図書室については，もう少し部局に積極的にコミットしてもらって，財政や人員的な手当をしてもらうことが必要ではないか，という意見が出されました。

最後に国際化についてです。利用案内は，英語と日本語ですが，たいていの図書館ですと，中国語版，韓国語版が用意されていますので，９カ国語の簡易版の案内があるというお話でしたが，さらに整備されることが，今後留学生を増やすためにも重要な手段になるかと思います。それから，避難経路や出口案内の掲示が日本語だけのようでした。地震などが起こると，留学生はパニックになりがちですので，せめて英語を併記していただければと思います。私の方でもまとめたのは，以上ですが，他の委員の方から足りない点とか付け加えるべき点とかありましたら，お願いします。

委員）北大の場合，あまり意識をしなくても観光客は来るのだと思いますけど，地域の生涯学習支援をうたっているということは，具体的にどのようなことをするのか，考える必要があるのでないかということを，同じ住民として感じます。アンケートを見ますと，市民の利用者がたくさんいて自分たちが使えない，という学生からの意見があるようですので，そこは整理をするといいのではないかな，と思いました。今日は，早めに来て，大学の入口のところでコーヒーを飲んできましたが，図書館の中にもああいうスペースをつくってもらったら，すごくいいんじゃないですか。商業ベースのカフェよりもこの大学の雰囲気に合っていると思います。

委員長）あとはよろしいでしょうか。それでは，講評のまとめは以上です。

副館長）委員の先生方，本当にありがとうございました。忌憚のないご指摘をいただいたことに感謝申し上げます。今，講評を伺いまして，来館者数に関しては，本館は改修後にＶ字回復を果たし，北図書館は，改修前から本館をしのぐ来館者数となっているのですが，そのことにあぐらをかいていたかな，と思い，待ちの姿勢が見られる，というご意見が，ずきずきと胸にひびきました。施設を作ってよしとするのではなく，アクティブにこちらからアピールしていくという姿勢が必要だとご指摘いただいたと思っておりますので，本日欠席しております新田館長に正しく伝えますとともに，館員一同で，課題に対して真摯に取り組みたいと存じます。

私個人といたしましては，若手館員に対して，どういう未来のビジョンを持っているのか，という質問があったことが大変印象的でございました。といいますのも，若い方たち，そして学生が未来をデザインするということは，すごく大事だなと，今頃になって思っておりますので，貴重なご質問だったと思いました。この点も全ての館員に伝えて，外部評価の有効性を高めていきたいと存じます。

このあと，先生方におかれては，評価シートにご記入いただくとともに，外部評価報告書をまとめるという作業が残っておりますが，最後までどうぞご指導いただきますようよろしくお願いします。

委員長）ひとつ忘れていました。展示会では，入場者数は把握されているのでしょうか。

北大）ロビー展示ですので，正確な入場者数の把握は難しいところがあるのですけれども，今回からカウンターを押してもらう方式を取り入れました。

委員長）分かりました。

委員長）評価シートにおいては各委員から，また，思い出した指摘があるかもしれませんが，今後の改善にお役に立てていただければ幸いです。

９.「評価シート」及び記入要項

平成２６年度北海道大学附属図書館外部評価
「評価シート」のご記入について

・ この「評価シート」は，外部評価委員の先生方に，外部評価委員会（9 月 5 日）にご出席いただいた後，ご提出を願うものです。

・ 評価の対象期間は，平成 15 年度から 24 年度までを中心とし，さらに現在（平成 26 年 9 月）までの活動状況に対する評価を加味してください。

・ 評価項目は『平成 25 年度北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書（平成 15 年度～24 年度）』の構成に即しており，19 項目あります。

・ 「評価」は，４段階の評語の選択肢から該当するものを必ずひとつ選んでチェックしてください。選択肢は，以下のようにお考えください。

非常に優れている（十分な活動がなされている）
良好である（改善の余地がある）
おおむね良好である（改善の必要がある）
不十分である（大幅な改善が必要である）

・ 「コメント」には，評価のポイントや判断の根拠となった点をご記入ください。特に早急に改善することが望ましい点の指摘，改善のための助言なども併せてご教示ください。「コメント」は，各評価項目についてひとつ以上，できる限りご記入くださるようお願いします。欄を拡張してご使用いただいても結構です。

・ 「評価シート」はメール添付にて，平成 26 年 10 月 31 日（金）まで下記担当宛にご提出ください。また，評価にあたり，追加の資料を必要とする場合やご質問がある場合は，随時担当にご連絡ください。

本件担当・ご提出先：
北海道大学附属図書館 管理課

平成２６年度北海道大学附属図書館外部評価「評価シート」

委員氏名（　　）

Ⅰ　教育学習支援

１．利用者サービス

評価

□　非常に優れている
□　良好である
□　おおむね良好である
□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．蔵書管理

評価

□　非常に優れている
□　良好である
□　おおむね良好である
□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

３．学習環境

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

Ⅱ　研究支援

１．学術研究コンテンツの整備

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．研究支援としての情報リテラシー教育

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

３．北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

４．研究用図書の整備

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

Ⅲ　連携

１．学内

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．学外

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

Ⅳ　社会貢献と国際化

１．地域・社会貢献

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．国際化への対応

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

Ⅴ　組織運営

１．組織

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．予算

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

３．施設

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

４．図書館情報システム

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

５．図書資産の管理

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

６．安全管理

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

７．広報

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

８．点検評価

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

上記の評価項目のほか，北海道大学附属図書館の活動について，ご意見・ご要望・ご助言等がありましたら，以下にお書き添えください。ありがとうございました。

１０．北海道大学附属図書館概況（自己点検・評価報告書対応状況）

平成25年度外部評価委員会 1

はじめに

- 平成25年度北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書
- 対応状況まとめ
- 完結型で完了した課題
- 完結型で年度内完了予定の課題
- 完結型で実施中の主な課題
- 継続型で実施中の主な課題
- 検討未着手の課題
- 追加すべき課題

北海道大学

平成25年度外部評価委員会 2

平成25年度 北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書

・新たなミッションにおける四目標
　教育学習支援
　研究支援
　社会貢献と国際化
　組織運営

・「四目標＋連携」に対応した41の課題

・41の課題に含まれる84の個別課題

北海道大学

平成25年度外部評価委員会 3

平成25年度 北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書

個別課題84の相互関連

・北図書館の増改築が3件（重複）

・遡及入力の完了に含まれるものが1件（内包）

・学内関連機関との連携に含まれるものが3件（内包）

重複・内包を除くと78件の個別課題となる

北海道大学

平成25年度外部評価委員会 4

対応状況まとめ

個別課題78件には二つのタイプ

・完結型（遡及入力、マニュアルの作成等） 31件
・継続型（蔵書点検、広報活動等） 47件

20点満点での採点方法
・完結型（未検討:0、検討中:5、実施中:10、
　年度内対応完了:15、対応完了:20）
・継続型（未検討:0、検討中:10、実施中:20）

北海道大学

平成25年度外部評価委員会 5

対応状況まとめ

対応状況（全体）
・完結型（未検討:8、検討中:7、実施中:10、
　年度内対応完了:4、対応完了:2）
・継続型（未検討:11、検討中:7、実施中:29）

平均点 （）内は重複・内包をカウント
・完結型　7．6（ 7．9）
・継続型 13．8（14．0）
・全体　 11．3（11．4）

北海道大学

平成25年度外部評価委員会 6

対応状況まとめ

対応状況（教育学習支援：重複・内包もカウント）
・完結型（未検討:2、検討中:4、実施中:8、
　年度内対応完了:1、対応完了:1） 16件
・継続型（未検討:1、検討中:1、実施中:12） 14件

平均点
・完結型　8．7
・継続型 17．9
・全体　 12．8

北海道大学

対応状況まとめ

対応状況（研究支援：重複・内包もカウント）
- 完結型（未検討：1、検討中：2、実施中：2、
  年度内対応完了：0、対応完了：0） 5件
- 継続型（未検討：2、検討中：2、実施中：6） 10件

平均点
- 完結型　6．0
- 継続型　14．0
- 全体　11．3

対応状況まとめ

対応状況（連携：重複・内包もカウント）
- 完結型（未検討：2、検討中：0、実施中：0、
  年度内対応完了：1、対応完了：0） 3件
- 継続型（未検討：2、検討中：1、実施中：1） 4件

平均点
- 完結型　5．0
- 継続型　7．5
- 全体　6．4

対応状況まとめ

対応状況（社会貢献と国際化：重複・内包もカウント）
- 完結型（未検討：1、検討中：0、実施中：2、
  年度内対応完了：0、対応完了：0） 3件
- 継続型（未検討：1、検討中：2、実施中：4） 7件

平均点
- 完結型　6．6
- 継続型　14．5
- 全体　12．0

対応状況まとめ

対応状況（組織運営：重複・内包もカウント）
- 完結型（未検討：2、検討中：1、実施中：3、
  年度内対応完了：2、対応完了：1） 9件
- 継続型（未検討：5、検討中：1、実施中：7）13件

平均点
- 完結型　9．4
- 継続型　11．5
- 全体　10．7

対応状況まとめ

	課題	完結		継続		個別合計	
	件数	件数	平均点	件数	平均点	件数	平均点
教育学習支援	13	16	8.7	14	17.9	30	12.8
研究支援	7	5	6.0	10	14.0	15	11.3
連携	4	3	5.0	4	7.5	7	6.4
社会貢献と国際化	6	3	6.6	7	14.5	10	12.0
組織運営	11	9	9.4	13	11.5	22	10.7
合計	41	36	7.9	48	14.0	84	11.4

対応状況まとめ

- 対応状況のみの評価
- 課題の難易度は無視

- 全体及び継続型の平均点からの対応状況
  教育学習支援＞社会貢献と国際化＞研究支援
  ＞組織運営＞連携

- 完結型の平均点からの対応状況
  組織運営＞教育学習支援＞社会貢献と国際化
  ＞研究支援＞連携

完結型で完了した課題

- 早朝開館本運用
  - 9時開館から8時開館へ
  - 平成25年10月1日から試行
  - 平成26年度から本運用
  - 8時開館本運用実施は4月4日（本館）、4月7日（北）
- 盗難時等のマニュアル作成
  - 利用者対応、警察対応等
  - 作成後利用する機会が発生してしまう

完結型で年度内完了予定の課題

- e-DDSへの全部局図書室参加
  - 現在改修中の一部局図書室のみ未参加
  - 改修終了後の11月から全部局図書室参加予定
- UMassとの協定締結
  - 協定書の本文（英文・和文）について合意済
  - 北大図書館長署名済の文書を発送済
  - 現在相手館館長の署名済文書到着を待機中

完結型で年度内完了予定の課題

- ホームページのさらなる改修
  - 改修案について館内合意手続終了
  - 10月1日から新ホームページへ切替予定
- 外部評価の実施
  - 本日委員会開催
  - 年度内に報告書作成予定

完結型で実施中の主な課題

- 北図書館の増改築
  - 増築部分は今年度完成予定
  - 来年度リニューアルオープン予定
  - 既存棟の改築については概算要求準備中
- 遡及入力
  - 残り20万冊
  - 残っているものには簡単に入力できないものが多い

完結型で実施中の主な課題

- 研究開発室
  - 昨年度3名、今年度1名の計4名の室員発令
  - 今年6月に第一回の研究開発室会議を実施
  - 現在はグループ単位で活動中
- 第3期中期目標・中期計画
  - 全学レベルでの検討が開始されている
  - 全学の第2期中期計画には図書館の項目無し

継続型で実施中の主な課題

- 学生のニーズにあった学習環境提供
  - 本館南棟（平成23年4月オープン）
  - 学習支援企画担当の設置（本年4月）
  - 情報リテラシー教育支援WGの設置（本年3月）
  - 北図書館の増改築
- 学生協働
  - 学生サポーター制度の開始（平成25年度）
  - 図書館サービスへの提言、イベント、広報活動等

継続型で実施中の主な課題

- 電子ジャーナル
  - 平成26年度は前年度より約1億円契約価格上昇
  - 財務担当からも見直しを求められている
  - 消費税対策は全く目処がたっていない
- 北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP)
  - 研究者へのさらなる浸透
  - 博士論文のインターネット公開義務化へのフォロー
  - 研究データ等への収録範囲の拡大

継続型で実施中の主な課題

- 学内関係部署との連携
  - 平成24～25年度に連携先が多様化
  - 今後もさらなる拡大に努力する
- 一般市民向け展示・イベント
  - メディアコートの活用等
- 留学支援と留学生支援
  - 語学学習(英語・日本語)支援等

検討未着手の課題

- 休業期間開館時間延長
- 合理的な相互利用サービスのあり方の検討
- 札幌農学校文庫の貴重資料室(要拡張)への配架
- ディスカバリーサービスの検討
- 消耗品として受入した研究用図書の扱い
- 研究用図書管理業務の迅速な処理
- 他大学の学生への館外貸出の検討(済・貸出せず)
- 大学図書館の館種を超えた他の多様な機関との連携
- **JUSTICE**への具体的な貢献の検討
- 北京大学との協定についての見直し

検討未着手の課題

- 公共図書館との連携等一般市民へのサービス検討
- 中国語等の「利用案内」や館内案内の作成
- 館長・副館長と事務部が、さらに機動的な連携で、迅速な意思決定が出来るようにする
- 能力や適性を把握し健康状態や家庭環境に配慮し成長できる組織
- 本館・北図書館・部局図書室の機能と役割を明確化し関係者の共通合意とする
- 部局図書室の部分統合・完全統合についての検証

検討未着手の課題

- 新たにさまざまな事業と連携し、事業運営資金を獲得する
- 次の自己点検の実施を計画に明記
- 利用者アンケート調査の定期的実施

追加すべき課題

- 課題対応状況についての定期的評価
- 対応した結果についての定期的評価
- 今回指摘いただける課題

１１．写真



望月副館長より開会挨拶



実地視察：本館①



実地視察：本館②



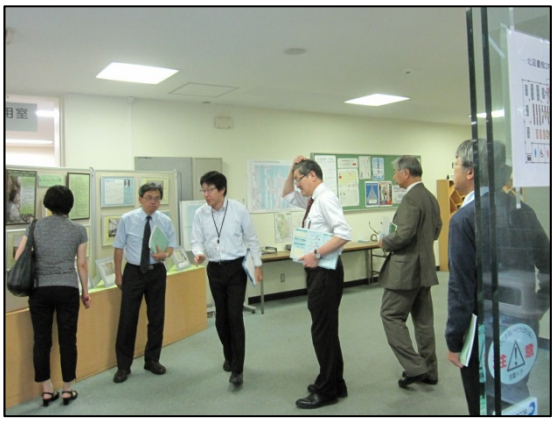
実地視察：本館③



昼食：学生との懇談①



昼食：学生との懇談②



実地視察：北図書館①



実地視察：北図書館②



実地視察：北図書館③



実地視察：経済学部図書室



職員との懇談，質疑応答①



職員との懇談，質疑応答②

平成 26 年度
北海道大学附属図書館外部評価報告書

平成 27（2015）年３月発行

編集・発行　北海道大学附属図書館

〒060-0808　札幌市北区北８条西５丁目

電話　011-706-4998

FAX　011-747-2855